

自立活動ハンドブック

—知的障害のある児童生徒の指導のために—



平成27年2月
岡山県総合教育センター

— はじめに —

岡山県総合教育センターでは、特別支援学校授業づくり研修講座の中で、自立活動の講座を開講しています。その研修講座に参加された方から、「障害による学習上又は生活上の困難をどのように捉えればよいのでしょうか」「実態把握から指導目標や具体的な指導内容をどのように組み立てていくとよいのか分かりにくいです」等の声を聞くことがあります。また、初任者からは、「実態を的確に把握するためにはどのようにしたらいいのでしょうか」「目標設定の仕方はどのようにしたらいいのでしょうか」「教科別の指導や各教科等を合わせた指導の中で、自立活動をどのように扱ったらいいのでしょうか」といった質問をされることもあります。

また、平成21年の特別支援学校学習指導要領の改訂では自立活動の内容が見直され、知的障害教育では、個に応じた指導や障害特性に応じた専門的指導の一層の充実が求められています。そして、第2次岡山県特別支援教育推進プランにおいても、特別支援学校の教員の専門性向上の三つの大きな取り組みの中に、自立活動の指導に関する専門性の向上を取り上げています。

こういった現状を踏まえ、このハンドブックは、初めて自立活動の指導に当たられる方を念頭に置いて分かりやすく内容を構成するようにしました。もちろん、経験のある方にも活用していただきたいと考えています。

このハンドブックが知的障害のある児童生徒に対する自立活動の指導を適切に、効果的に進めていくための一助となれば幸いです。

— ハンドブックの活用にあたって —

このハンドブックは、自立活動における個別の指導計画を適切に作成するための手順について解説した『手順編』と、それに沿って作成した計画による指導の実際を紹介した『実践編』で構成しています。ニーズや経験に応じて、必要なページを開いてご活用ください。

『手順編』では、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（以下、「自立活動編」という。）に示されている自立活動の指導計画の作成と内容の取扱いを基本とし、指導目標や指導内容を導き出すための考え方の一例を示しています。各学校で使われている様式等を基本に、必要な箇所を参考にしてください。

『実践編』では、知的障害特別支援学校、知的障害特別支援学級の自立活動の時間における指導や教科等と関連付けた指導等の授業実践を幅広く紹介しています。自分の所属する校種、学部の授業はもちろん、他校種、他学部の実践もご覧いただくと参考になるとと思います。



— 目 次 —

*はじめに	
*ハンドブックの活用にあたって	
<手順編>	2
*自立活動を考える…その前に！	3
1 自立活動について	4
2 自立活動の教育課程上の位置付け	5
3 自立活動の目標と内容、取扱い	6
4 自立活動における個別の指導計画の作成	7
*自立活動の指導「手順シート」	8
(1) 実態把握 A児を例に	9
(2) 指導目標の設定	13
(3) 項目の選定、項目の関連付け、具体的な指導内容の設定	15
(4) 指導場面の設定	22
5 自立活動の評価について	23
<実践編>	24
1 特別支援学級実践例	25
*特別支援学級実践例を読むにあたって	25
(1) 小学校知的障害特別支援学級B児のケース	26
(2) 中学校知的障害特別支援学級生徒Cのケース	30
*実践を振り返って	34
2 特別支援学校実践例	36
(1) 小学部D児のケース	36
ア 児童の実態把握と個別の指導計画	36
イ 自立活動の時間における指導	38
ウ 各教科等における指導	40
エ 各教科等を合わせた指導	42
(2) 高等部生徒Eのケース	44
ア 生徒の実態把握と個別の指導計画	44
イ 各教科等における指導	46
ウ 各教科等を合わせた指導	48
*実践を振り返って	50
*おわりに	52
*引用・参考文献	52

< 手順編 >



* 自立活動について考える…その前に！

そもそも「自立活動」って、何だと思えますか？



ある特別支援学級の教師



買い物に行ったり，一人で洗濯したり，料理を作ったり，畑で野菜を育てたりする活動なんじゃないかなあ…。要するに，将来，自立した生活を送ることができるようにするための活動じゃないのかな…???

それとも，もしかすると，教師がいなくても，子ども自身で自学自習ができるようにするための指導かな…？“自立”した“活動”だから，例えば，学習メニューに従って，自分でプリント学習をしていくようなもの…???

ある特別支援学校の教師

子どもたちと日々過ごしていると，私が指導に困ることがたくさんあるわ。自立活動では，それをなくしていくようにするイメージでいいのかな…???

それから，こんな話を聞いたこともあるわ。自立活動は，子どもたちみんなに発達検査を実施して，検査結果の低い項目を引き上げていくように指導するらしい…。それでいいのかな…???



二人とも悩んでいるようですね。でも，残念ながら，二人が話してくれたイメージは，文部科学省が示している自立活動の本質とは異なっているようです。

これから，一緒に自立活動の趣旨を踏まえながら，指導のプロセスを確認していきましょう。

1 自立活動について

小・中学校等の教育は、児童生徒の生活年齢に即して系統的・段階的に進められており、教育内容は、発達の段階等に即して選定されたものが配列されています。それらを順に教育することにより人間として調和のとれた育成が期待されています。

一方、障害のある児童生徒の場合は、その障害によって、日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じることから、小・中学校等の児童生徒と同じように心身の発達の段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えません。

個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となるため、特別支援学校においては、小・中学校等に準じた各教科等や知的障害のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等のほかに、「自立活動」という特別の指導領域を設定し、その指導を行うことによって、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指しているのです。

自立活動編
を手元において併せて読んでみてくださいね。



なるほど、子どもが日常生活や学習場面で困っていることを改善・克服するという視点が大切なのですね。

自立活動が意味する「自立」とは、児童生徒が障害の状態や発達の段階に依りて、自分の力を可能な限り発揮し、主体的によりよく生きていこうとすることなのです。そして、障害によって生じるつまずきや困難を軽減しようとしたり、障害があることを受け止めたりするために必要な知識や技能を学んだり、態度や習慣を身に付けたりするための活動なのです。



そうか！自立活動の指導は、一人で自立した生活ができるようにするための技能や一人で自主学習ができるための態度を身に付けることを、直接的なねらいとする指導ではないのですね。

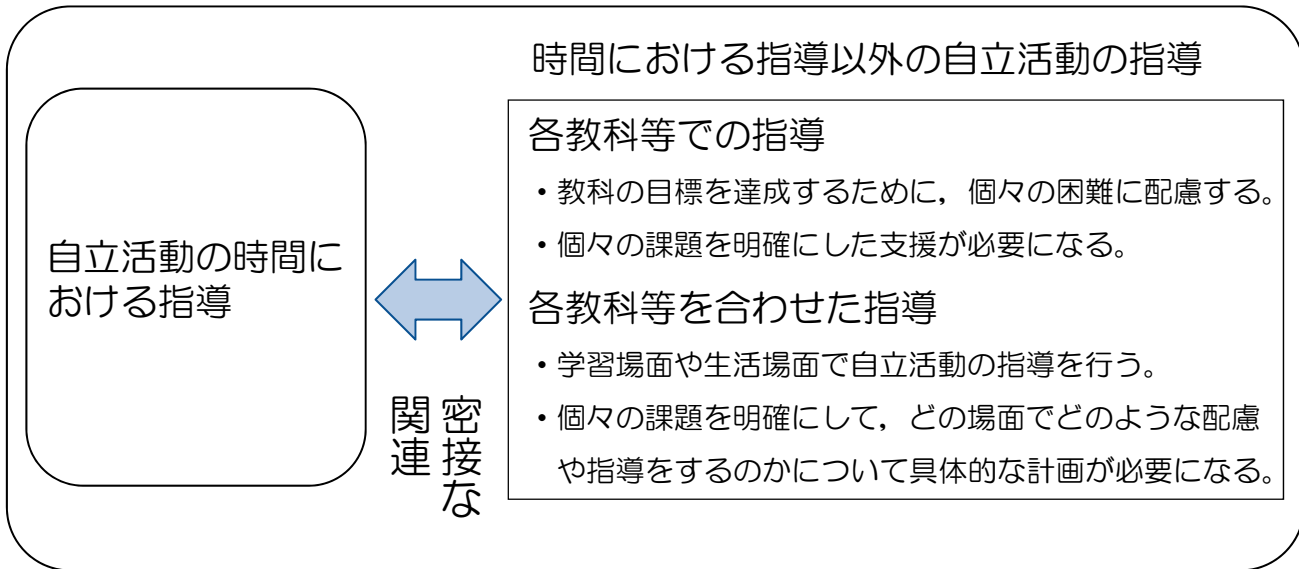
自立活動は、一人一人の児童生徒の実態に対応した活動であり、よりよく生きていくことを目指した主体的な取り組みを促す教育活動なのです。



2 自立活動の教育課程上の位置付け

自立活動は、特別支援学校の教育課程に特別に設けられた指導領域です

〔学校の教育活動全体を通じて適切に行う〕



自立活動は、障害のある児童生徒の教育において、教育課程上重要な位置を占めています。

自立活動は、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行わなければなりません。

特別支援学級でも

小学校又は中学校の特別支援学級や通級による指導においては、児童生徒一人一人の障害の状態を考慮すると、小学校又は中学校の教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当ではなく、特別支援学校学習指導要領に示されている自立活動等を取り入れた特別な教育課程を編成することが必要な場合があります。

学校教育法施行規則第138条、同第140条の規定を受けて、小学校学習指導要領・中学校学習指導要領解説の総則編では「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を参考とし、例えば、障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした指導領域である『自立活動』を取り入れ」¹⁾ ²⁾ るなどして、実情に合った教育課程を編成する必要があることが示されています。

特別支援学級でも同じように障害による学習上、生活上の困難に対応するためには自立活動の指導が必要なのですよ。



3 自立活動の目標と内容，取扱い

自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し，障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識，技能，態度及び習慣を養い，もって心身の調和的発達を基盤を培う。

特別支援学校学習指導要領に示されている自立活動の内容

自立活動の「内容」は，6区分26項目で示されており，その中から個々の児童生徒の障害の状態や発達の程度に応じて必要な項目を選定し，関連付けて具体的な指導内容を設定します。自立活動の「内容」の全てを指導するものではありません。

自立活動の内容の考え方

自立活動の「内容」は，「人間としての基本的な行動を遂行するための要素」と「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」から構成されています。

1 健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事
- (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事
- (4) 健康状態の維持・改善に関する事

2 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関する事
- (2) 状況の理解と変化への対応に関する事
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事

3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事
- (2) 他者の意図や感情の理解に関する事
- (3) 自己の理解と行動の調整に関する事
- (4) 集団への参加の基礎に関する事

「自立活動編」には，それぞれの項目についての説明と具体的な指導内容例が示されています。



4 環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関する事
- (2) 感覚や認知の特性への対応に関する事
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事

5 身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事
- (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事
- (4) 身体の移動能力に関する事
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事

6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
- (2) 言語の受容と表出に関する事
- (3) 言語の形成と活用に関する事
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 自立活動における個別の指導計画の作成

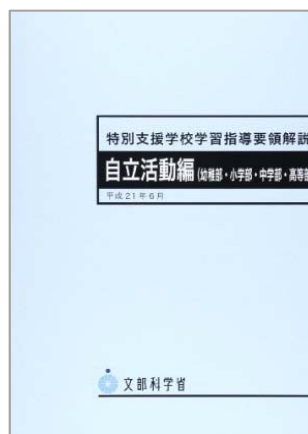
自立活動における個別の指導計画を考えるプロセス

自立活動における個別の指導計画は次の手順で作成します。

- ①「実態把握」
- ②実態に即した「指導目標の設定」
- ③個々の指導目標を達成するために必要な「項目の選定」
- ④選定した項目を関連付けた「具体的な指導内容の設定」

右に示している「自立活動編」では、自立活動における個別の指導計画作成の手順について77ページから説明されています。

また、自立活動の指導の基本として、個別の指導計画を作成した具体的な指導内容例も9ページから示されています。



自立活動は大切な指導だということは分かりました。でも、何をどのように組み立てて指導すればよいのでしょうか？
 実態把握から目標はどのように設定すればいいの？
 長期目標と短期目標の関係はどうなっているの？
 項目の選定はどう考えるの？
 項目の関連付けもよく分からないんだけど？
 具体的な指導内容は、どのように指導したらいいの？

自立活動における個別の指導計画を作成する際に、どのように考えるとよいのか次のページに示す[自立活動の指導「手順シート」](#)を使って一緒に考えていくことにしましょう。

自立活動における個別の指導計画を考えるための指導「手順シート」（全体図）は、自立活動編に示されている「第7章 2 指導計画の作成手順」を基にしています。

自立活動の指導「手順シート」は、どのように自立活動の指導計画を作成していけばよいのかという考え方を示したものです。

* 自立活動の指導「手順シート」

実態把握	障害の状態，発達や経験の程度，興味・関心，生活や学習環境等について多面的に情報収集	
	<p>学習面や生活面で子どもが困っていることを書き出していきます。保護者が気付いている子どもの困っていることも参考になります。</p> <p>収集した情報を学習上又は生活上の困難の視点から整理</p>	<p>背景要因</p> <p>それぞれの困っている事柄の背景にある要因を書きましょう。背景要因を推測するに当たっては，障害特性や発達に関する諸検査等の結果，自立活動の内容の6区分の視点等を参考にしてみましょう。</p>

<p>必要性…現在の生活だけでなく将来の生活を見通して，今何が必要か</p> <p>適時性…今指導することが適切な時期か</p> <p>達成可能性…予定の指導期間内で達成できるか</p>	<p>学習上，生活上の困難を改善するという視点，生活の質を向上させるという視点で考えてみましょう。長期目標は，1年間程度の期間で達成できることを目標にしましょう。</p>
---	---

長期目標	いくつかある指導目標の中で優先する目標を設定
------	------------------------

短期目標	<p>段階を踏んだ指導を展開し，最終的に長期目標を達成できるようにしましょう。長期目標の達成に向け，段階的に取り組むことができること，環境を整えらとできること等を考えてみましょう。また，「何をどんな支援でどのようにする」という条件・達成基準を具体的に考えてみましょう。さらに次のこと等も加えて考えてみましょう。</p> <p>①具体的な場面や活動 ②時間や回数 ③支援の条件</p>
------	---

選定された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<p>具体的な指導内容を考えるときに参考になる視点になる視点が自立活動の内容の6区分26項目です。どの項目が関係しているか多面的に捉えていきます。背景要因となっていることには，一つの区分だけしか関連していないということはありません。</p>					

子どもの活動のレベルで書きましょう。目標達成のためにどんな活動が必要かを考えてみましょう。

具体的な指導内容	選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定		
----------	-------------------------	--	--

指導場面	<p>自立活動は学校の教育活動全体を通じて行うことが基本になります。この欄では，その中でも優先度の高い指導場面を記入することで複数の教員で共通理解を図り，一貫した指導を行うための一助とします。</p>
------	--

短期目標の評価	<p>目標に対して指導がどうであったのか，目標がどの程度達成できたかを書いてみましょう。</p>
---------	--

(1) 実態把握 A児を例に

①-ア：例えば、プロフィール表を活用して考えてみます

* 自立活動の指導「手順シート」

児童の状況	学習上の課題	生活上の課題
長所		
短所		
自立活動の計画	学習上の課題	生活上の課題
指導内容	指導内容	指導内容
指導方法	指導方法	指導方法
指導期間	指導期間	指導期間
指導者	指導者	指導者

子どもの実態を把握しましょう。障害の状態は一人一人違います。自立活動では、一人一人の障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服することを目標にしています。子どもが自ら主体的に活動に取り組むことによって、知識や技能、態度を身に付けていくことを重要視しているのです。実態把握に基づいて設定する目標や具体的な指導内容、指導方法は、必然的に一人一人異なってきます。

次のようなプロフィール表を作成して実態把握をする方法もあります。



※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

プロフィール表					
氏名	A児	学部・学年	小学部第3学年	記入者	〇〇 〇〇
生年月日	平成〇年〇月〇日	障害・疾患名	知的障害	備考	
生育歴					
項目	内容				
①基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> かぶるタイプの上着の着脱では、脱ぎ始めや着始めのときに裾を持たせることで取り組もうとする。 ボタンは半分程度かけておいたりはずしておいたりすると自分で最後までできる。 靴下はつま先を入れると自分ではくことができる。 排泄は自立している。 水道の蛇口をひねって、水を出し、手を洗うことができる。 食事は一度にたくさん食べ物を口に入れてしまうので、一度に口に入れる量を調整している。 スプーンで食べている。 牛乳が苦手で、ランチルームの外に流してしまうことがある。 				
②人や物との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 特定の教師からの働きかけは受け入れることができる。 友達のしていることが気になり、関わろうとすることもある。 友達の持っているおもちゃを取ったり、服を引っ張ったりしてトラブルになることが多い。 				
③心理的状态	<ul style="list-style-type: none"> 機嫌のよいときは声を出して笑う。 毎日繰り返して行われる活動には落ち着いて取り組むことができる。 体調が悪いときや欲しい物が手に入らないとき等には自分の手をかんだり、頭をたいたりする。 周囲の人や物に興味に移りやすく注意が集中しにくい。 大きな音や友達の泣き声が苦手で、耳をふさいだり飛び出したりすることがある。 				
④コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 「靴を脱ぐ」「手を洗う」等、日常的で簡単な指示は理解して行動できる。 意に沿わない指示や分かりにくい説明をされたときには大声を出して怒ることがある。 困ったことがあっても助けを求めることができない。 混乱すると大きな声で叫んだり泣いたりする。 				
⑤健康状態	<ul style="list-style-type: none"> 健康である。 暑さや寒さは苦手で、活動に取り組みにくいことがある。 				

項目	内容
⑥身体機能	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本のページを1枚ずつめくることができる。 ・三輪車をこぐことができる。 ・椅子に座っていても時間が長くなると姿勢が崩れてくる。 ・シールを貼ったり、ビーズを通したりする指先を使った作業は苦手である。 ・高さ20cmくらいのハードルをまたぎ越すことができる。
⑦知的機能 (認知, 言語, 記憶, 判断, 推理, 思考, 想像等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が指さすところを注視することができる。 ・注意が集中しているときは絵と実物のマッチングができつつある。 ・教師のする簡単な動作を見て, 同じような動作をすることができる。 ・教室の中の物の位置はよく覚えている。 ・自分の物と友達の物の区別ができる。 ・活動への見通しがもてないと不安になる。
⑧興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> ・TVアニメのビデオやキャラクターのグッズを好む。 ・絵本やパネルシアターは好きで集中して見ることができる。 ・写真に興味をもち始め, 見ていることがある。 ・好きな歌のCDを聞くことが好きである。
⑨諸検査	<ul style="list-style-type: none"> ・太田ステージ評価 (LDT-R) ステージII (HO, O, O)
⑩本人の願い	
⑪保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・健康でいてほしい。 ・自傷行為がなくなしてほしい。 ・したいことや欲しい物等を伝えることができるようになってほしい。 ・一人でできることが少しずつ増えてほしい。
⑫その他	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の送迎で通学している。 ・学校の行事に父親や兄弟も参加する。

興味・関心のあることや得意なことも把握して記入しておきましょう。教材を考える際に参考になりますよ。

様々な視点から情報収集をしましょう。ここで収集した情報は、困難の背景にあるもの、困難の中に共通するもの、考えるときや具体的な指導内容を考えるときの手がかりになります。丁寧に実態を捉えておくとういことです。

また、ここで収集した情報だけでなく、各教科等で捉えた情報等も加味しながら自立活動に関する実態把握をしていきましょう。



それぞれの学校で作成しているプロフィール表が参考になりそうですね。私の学校は、作成したものが無いから、例示してある観点を参考に子ども一人一人の実態把握をしていくことにします。

①-イ：例えば、付箋紙を活用して考えてみます

自立活動の指導は、前述したように、子ども一人一人の障害による学習上又は生活上の困難に焦点を当てて行います。そのため、対象となる子どもの様々な学習や生活場面でみられる困難を把握し、整理していくことが必要となります。その方法の一つとして、例えば、次のようなことが考えられます。

【例】 A児に関わっている複数の教員が集まり、付箋紙を活用しながら、学習面、生活面に分けて、A児の困難を把握していきます。付箋紙は、ホワイトボードや模造紙等に貼り出していくと、後で整理しやすくなります。ただし、単独で作業を行う場合や、経験が浅く、思い付きにくい場合は、プロフィール表の記述内容を参考にしながら、書き出していくと良いと思います。

特定の教師からの働きかけは受け入れることができるよ。

大きな音や友達の泣き声で耳をふさいだり飛び出したりしているよ。

暑さや寒さは苦手で、活動に取り組みにくいことがあるわね。

困ったことがあっても助けを求められなくて困ってるよね。他にも、欲しい物があると、友達が遊んでいても取っちゃうことがあるよね。

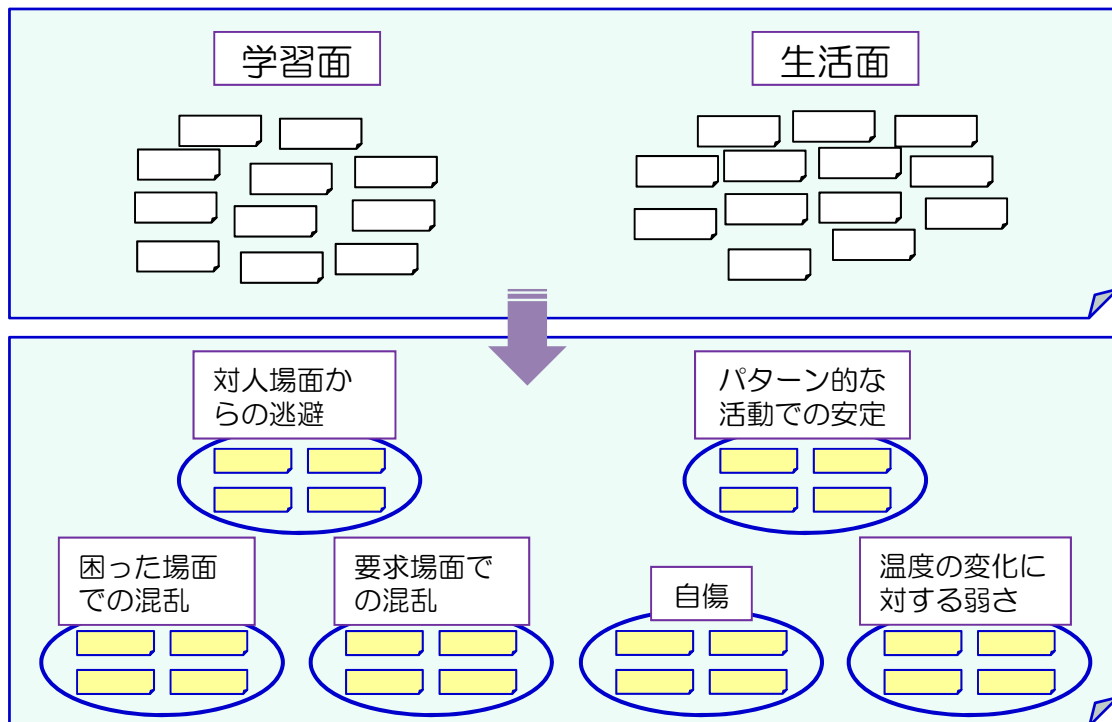
毎日繰り返している活動は落ち着いて取り組むことができるわ。

絵と実物のマッチングができつつある

自分の気持ちが伝えられないとき自傷行為がある

混乱すると大きな声で泣き叫ぶ

付箋紙に書き出してみましょう。



学習面、生活面という枠組みを超えて、同じグループになりそうなものをまとめ、タイトルを付けましょう。



② 困難の背景にある要因（困難がどこからきているのか）を考えてみます

「背景にある要因を考える」

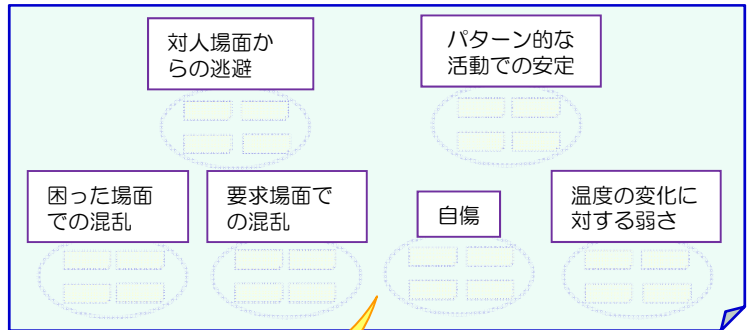
次に、学習上、生活上に整理された困難の背景にある要因（困難がどこからきているか）を考えます。背景にある要因が分からないと、目標や具体的な指導内容が適切に導き出せず、指導が対症療法的なことに留まってしまふことになります。

子どもに見られる困難の背景にある要因をとらえることが自立活動の指導プロセスの中で重要なポイントになります。必要に応じて、高い専門性がある先輩教師に相談したり、チームで検討したりすることが大切です。

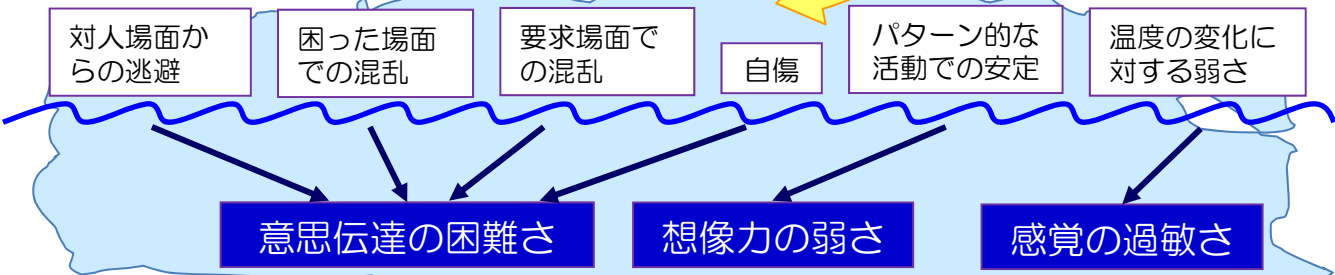
※ 自立活動の指導「手順シート」

目標設定	指導内容	指導方法	指導時間	指導場所	指導者
目標設定	指導内容	指導方法	指導時間	指導場所	指導者
目標設定	指導内容	指導方法	指導時間	指導場所	指導者
目標設定	指導内容	指導方法	指導時間	指導場所	指導者
目標設定	指導内容	指導方法	指導時間	指導場所	指導者
目標設定	指導内容	指導方法	指導時間	指導場所	指導者
目標設定	指導内容	指導方法	指導時間	指導場所	指導者
目標設定	指導内容	指導方法	指導時間	指導場所	指導者
目標設定	指導内容	指導方法	指導時間	指導場所	指導者
目標設定	指導内容	指導方法	指導時間	指導場所	指導者

※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)



氷山に例えると、水面下の見えない部分を想像していくイメージです。先ほどのA児の例では、下の図のように考えられます。



背景要因を考えたときのポイント

- プロフィール表に記述されている発達検査の結果や障害特性等を参照する。
- 異なった複数の困難が同じ要因に由来する場合がありますので、多面的に考え、推測する。
- 背景にある要因を考えることができるようになるためには次のような点について自己研修を積んだり、保護者等から聞き取ったりする。
 - ・様々な障害特性に関する知識
 - ・主な発達検査等に関する知識
 - ・人間の成長と発達に関する知識
 - ・その他、脳機能、感覚・運動機能、心理等の知識、生育歴等の聞き取り



自立活動の指導をしていくために、特別支援教育に関する様々な専門性を高める努力をしたいと思います。私も研修に出かけたり、本を読んだり、先輩教師に教えてもらったりして、頑張ります！



(2) 指導目標の設定

①優先順位を考えて長期目標を設定します

※自立活動の指導「手順シート」
(8ページ)

困難やその背景要因を整理する中で、将来達成が見込まれるものや、できるだけ速やかに取り組みたいものが混在していることに気付くと思います。それらの中から、優先されるものを取り上げ、長期的な（1年後の姿を想定した）目標を設定します。その際には、次のようなイメージで考えていくとよいでしょう。

「これができたら、これが改善されたら、学習や生活に主体的、意欲的に取り組みやすくなる（言い換えれば「学習や生活がもっと楽になる」）だろうな…」

「これ」に当たる困難やその背景要因が長期目標を設定する際の重要な要素として挙げられることとなります。さて、A児の「これ」は何になるのでしょうか？



A児の場合は、意思伝達の困難さが、学習や生活の様々な場面で影響を与えていると思います。しかも、自傷等の状況まで引き起こしています。A児の依頼や要求等の意思伝達の困難さを、代替手段の活用も視野に入れながら、改善することができると、学習や生活の様々な場面での活動はずいぶん楽になると思います。

そこで、1年後の目指す姿として、長期目標を次のように設定しました。

長期目標	周りの人に、カードを活用して、自分の要求を伝えることができる。
------	---------------------------------

困難や背景要因を整理し、優先順位を考える際のキーワードは、「これができたら、これが改善されたら、学習や生活がもっと楽になるだろうな…」でしたが、このキーワードには、次のような視点が含まれています。

- ①必要性：現在の生活だけでなく将来の生活も見通して、今、何が必要か。
本人にとって切実であるか。
- ②適時性：今指導することが適切な時期であるか。
- ③実現性：予定している期間内（1年間）で達成可能であるか。
- ④生活の質の向上：現在の生活の質をさらに向上させることができるか。
- ⑤ニーズの反映：子どもや保護者の願いに沿うものであるか。

いかに修正できるかが大事なポイント

長期目標は、固定的に考えるのではなく、PDCAサイクルの中で修正しながら取り組むことが大切です。子どもを丁寧に見つめ、指導を振り返りながら修正していきましょう。

また、チームで共通理解して指導するためにも1年間で取り組む目標は、一つか二つに絞りましょう。ただし、話し合いの過程で出てきた数多くの目標の中の一部であることも忘れないようにしましょう。



困難

背景にある要因

氷山に例えると、目に見える困難は水面より上の部分です。育てたい力は水面の下の部分になります。目標は、背景にあるものを意識しつつ、困難が軽減され、もっと楽に生活できる状態を考えるとよいと思います。

②長期目標に至るステップを考えて短期目標を設定します

自立活動の指導「手順シート」

場面	促しのない自由な場面	教師のある場面
短期目標		
長期目標		
指導内容	言葉の交換	絵カードの提示
指導方法		
指導者		
評価		



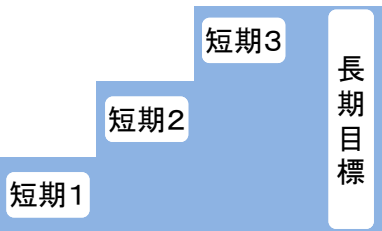
※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

長期目標を達成するためには、個々の子どもの実態に即して、必要な指導内容を段階的、系統的に取り上げることが大切です。つまり、段階的に短期目標が達成され、それがやがて長期目標の達成につながるという展望があることが必要です。

長期目標と短期目標との関係

段階的な短期目標の設定

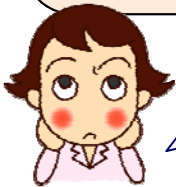
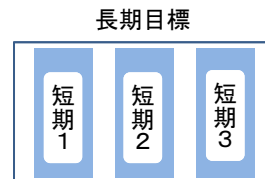
場面や支援の条件等のレベルを段階的に高めていくように短期目標を設定することによって、長期目標が達成されていくイメージ



下のようなタイプの短期目標もあります。

並列的な短期目標の設定

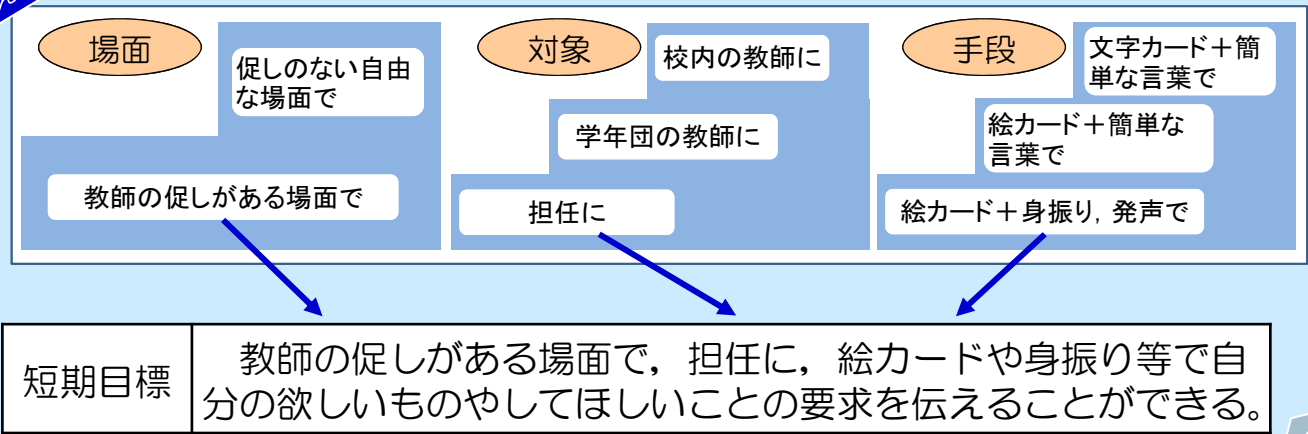
一定期間内で複数の設定した短期目標を、いくつか達成することによって、その結果として長期目標が達成されていくイメージ



う〜ん…。A児の場合はどうなるかな…。1年後の姿に段階的に近づくためには、例えば、こんなイメージかな。

長期目標：周りの人に、カードを活用して、自分の要求を伝えることができる。

例えば…



(3) 項目の選定, 項目の関連付け, 具体的な指導内容の設定 ①具体的な指導内容を考えます ~項目の選定~

次は, 短期目標を達成するためにどのような具体的な指導内容が必要かを考えます。



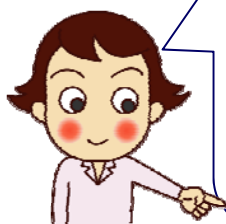
短期目標の設定まではできたけれど, 具体的な指導内容を考えるのはなかなか難しいです。それを導き出すためには, どのように考えたらいいのでしょうか？



そうですね。初めは難しいと思います。その解決のため, 具体的な指導内容を検討するときの視点があるのです。

具体的な指導内容を考えるときの参考となる視点が, 自立活動の内容である6区分26項目です。自立活動編に示されている具体的な指導内容例や他の項目との関連例を読みながら, 短期目標を達成するために必要な項目を選びましょう。

項目を選定する際には, もう一度, 困難の背景にある要因を確認しておきましょう。



A児の短期目標は, 「教師の促しがある場面で, 担任に, 絵カードや身振り等で自分の欲しいものやしてほしいことの要求を伝えることができる」でした。そして, 言動や態度の荒れや情緒の不安定さの背景にある要因が「意思伝達の困難さ」であると予想されました。そのため, 6区分の中で中心となる区分は, やりとりに関わる「コミュニケーション」と, 対人関係に関わる「人間関係の形成」だと考えます。また, それらに関係して, 情緒に関わる「心理的な安定」と, 認知の特性に関わる「環境の把握」も挙げておく必要があると思います。

解説を読みながら, 区分の下にある項目にもチェック(■)をしてみました。

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
項目	<input type="checkbox"/> (1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (1)情緒の安定に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (1)他者とのかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (1)保有する感覚の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	<input type="checkbox"/> (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (2)状況の理解と変化への対応に関する事	<input type="checkbox"/> (2)他者の意図や感情の理解に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (2)感覚や認知の特性への対応に関する事	<input type="checkbox"/> (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (2)言語の受容と表出に関する事
	<input type="checkbox"/> (3)身体各部の状態の理解と用語に関する事	<input type="checkbox"/> (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	<input type="checkbox"/> (3)自己の理解と行動の調整に関する事	<input type="checkbox"/> (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (3)日常生活に必要な基本動作に関する事	<input type="checkbox"/> (3)言語の形成と活用に関する事
	<input type="checkbox"/> (4)健康状態の維持		<input type="checkbox"/> (4)集団への参加	<input type="checkbox"/> (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事	<input type="checkbox"/> (4)身体の移動能力に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
				<input checked="" type="checkbox"/> (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	<input type="checkbox"/> (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	<input type="checkbox"/> (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事



教科等の内容と違い, ここに示す全ての区分項目を扱ったり, 順番に指導したりするものではありません。まずは, 具体的な指導内容を考える際の中核となる項目を選び, 次に, それに関係しそうな他の項目も併せて選んでいきましょう。

②具体的な指導内容を考えます ～項目の関連付け～

選定した項目について、「自立活動編」に書かれている内容を確認しておきましょう。そうすることで、具体的な指導内容が思い浮かびやすくなります。



分かりました！え～と、今回チェックを入れたのは、次の区分・項目だったわ。



2 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関すること
- (2) 状況の理解と変化への対応に関すること

3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること

4 環境の把握

- (2) 感覚や認知の特性への対応に関すること
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること



選定したこれらの項目の関係箇所を、解説から書き出してみます。

2 心理的な安定

(1) 情緒の安定に関すること

① この項目について

「『(1)情緒の安定に関すること。』は、情緒の安定を図ることが困難な幼児児童生徒が、安定した情緒の下で生活できるようにすることを意味している。」³⁾

② 具体的な指導内容例と留意点

「ADHDのある幼児児童生徒は、自分の行動を注意されたときに、反発して興奮を静められなくなることがある。このような場合には、自分を落ち着かせることができる場所に移動してその興奮を静めることや、いったんその場を離れて深呼吸するなどの方法があることを教え、それらを実際に行うことができるように指導することが大切である。」⁴⁾



なるほど。言動が荒れた後の気持ちの収め方を指導していくという発想はありませんでした。A児にとってこれらも指導の視点として大切だと思います。

(2) 状況の理解と変化への対応に関すること

① この項目について

「『(2)状況の理解と変化への対応に関すること。』は、場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付けることを意味している。」⁵⁾

② 具体的な指導内容例と留意点

「場所や場面が変化することにより、心理的に圧迫を受けて適切な行動ができなくなる幼児児童生徒の場合には、教師と一緒に活動しながら徐々に慣れるようにすることが必要である。…

自閉症のある幼児児童生徒は、予告なしに行われる避難訓練や、急な予定の変更などに対応することができず、混乱したり、不安になったりして、どのように行動したらよいか分からなくなることがある。このような場合には、予想される事態や状況を予告したり、事前に体験できる機会を設定したりすることなどが必要である。」⁶⁾



確かにA児は場所や場面の変化に弱いと思います。まずは、場面と人を固定してから、カードの使い方に慣れて、成功体験を積むことが大切だということですね。

3 人間関係の形成

(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること

① この項目について

「『(1)他者とのかかわりの基礎に関すること。』は、人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるようにすることを意味している。」⁷⁾

② 具体的な指導内容例と留意点

「人に対する基本的な信頼感は、乳幼児期の親子の愛着関係の形成を通してはぐくまれ、成長に伴い様々な人との相互作用を通して対象を広げていく。障害のある幼児児童生徒は、障害による様々な要因から、基本的な信頼感の形成が難しい場合がある。(途中省略)

また、他者とのかかわりをもとうとするが、その方法が十分身に付いていない自閉症のある幼児児童生徒の場合には、まず、直接的に指導を担当する教師を決めるなどして、教師との安定した関係を形成することが大切である。そして、やりとりの方法を大きく変えずに繰り返し指導するなどして、そのやりとりの方法が定着するようにし、相互にかかわり合う素地を作ることが重要である。その後、やりとりの方法を少しずつ増やしていくが、その際、言葉だけでなく、具体物や視覚的な情報を加えて分かりやすくすることも大切である。」⁸⁾



なるほど。A児の人に対する基本的な信頼感は弱いと思います。まずは、人と一緒にいることで安心したり、やりとりすることを楽しいと感じたりする経験を十分に積むことが大切なんですね。それを基盤として、要求表現の方法の獲得に取り組んでいかなきゃいけないんですね。

4 環境の把握

(2) 感覚や認知の特性に関すること

① この項目について

「『(2)感覚や認知の特性に関すること。』は、障害のある幼児児童生徒一人一人の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにするとともに、特に感覚の過敏さや認知の偏りなどの個々の特性に適切に対応できるようにすることを意味している。」⁹⁾

② 具体的な指導内容例と留意点

「これらの児童生徒は、認知面において不得意なことがある一方で得意な方法をもっていることも多い。例えば、聴覚からの情報は理解しにくくても、視覚からの情報の理解は優れている場合がある。したがって、一人一人の認知の特性に応じた指導方法を工夫し、不得意な課題を少しずつ改善するよう指導するとともに、得意な方法を積極的に活用するよう指導することも大切である。」¹⁰⁾



A児はここに書いてあるとおり、聴覚からの情報は理解しにくくても、視覚からの情報の理解は優れています。絵カードを活用しての要求表現の指導を取り入れていけばよいということですよ。

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

① この項目について

「『(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。』は、ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるようにすることを意味している。」¹¹⁾

② 具体的な指導内容例と留意点

「『認知や行動の手掛かりとなる概念』とは、これまでの自分の経験によって作り上げてきた概念を、自分が新たに認知や行動を進めていくために活用することを意味している。したがって、極めて基礎的な概念を指しているが、常時行われる認知活動によって更にそれが変化し、発達に即した適切な行動を遂行する手掛かりとして、次第により高次な概念に形成されていくと考える。」¹²⁾



でも、絵カードを活用できるようになるためには、その基礎となる概念を育てていく必要があるということかな。そもそも、実物と絵カードのマッチングができない段階で、要求表現の手段になるはずがないですね。

6 コミュニケーション

(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること

① この項目について

「『(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。』は、幼児児童生徒の障害の種類や程度、興味・関心等に応じて、表情や身振り、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けることを意味している。」¹³⁾

② 具体的な指導内容例と留意点

「自閉症のある幼児児童生徒の場合、持ち主の理解を得ないで、物を使ったり、相手が使っている物を無理に手に入れようとしたりすることがある。また、他の人の手を取って、その人に自分が欲しい物を取ってもらおうとすることもある。このような状態に対しては、周囲の者がそれらの行動は意思や要求を伝達しようとした行為であると理解するとともに、できるだけ望ましい方法で意思や要求などが伝わる経験を積み重ねるよう指導することが大切である。」¹⁴⁾



まず、A児の行動に表現されている意思や要求を私たちが理解することが大切なんですね。それとともに、その表現方法を望ましい方法に導いていく必要があるんですね。今は、A児の表現は決して望ましいものとはいえません。ただし、方法だけを無理やり指導するのではなく、伝わったという成功経験の積み重ねこそが方法の定着につながるんですね。

(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

① この項目について

「『(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。』は、話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、コミュニケーションが円滑にできるようにすることを意味している。」¹⁵⁾

② 具体的な指導内容例と留意点

「近年、科学技術の進歩等により、様々なコミュニケーション手段が開発されてきている。そこで、幼児児童生徒の障害の状態や発達の段階等に応じて、適切なコミュニケーション手段を身に付け、それを選択・活用して、それぞれの自立と社会参加を一層促すことが重要である。…

自閉症のある幼児児童生徒で、言葉でのコミュニケーションが困難な場合には、まず、自分の意思を適切に表し、相手に基本的な欲求を伝えられるように身振りなどを身に付けたり、話し言葉を補うために機器等を活用できるようにしたりすることが大切である。」¹⁶⁾



A児には、話し言葉を補うために、カード等を活用して、ぜひ、要求が伝わった喜びを味わってほしいです。そして、自分から人と関わろうという意欲をどんどん高めてもらいたいです。

どうですか。一つ一つの項目について、解説を読み込んでいくと、具体的な指導内容がイメージしやすくなるでしょう。



はい、そう思います！



今度は、それぞれの項目に関連のある内容を結び付けながら、さらに具体的な指導内容を考えてみましょう。

分かりました！じゃあ、前のページの項目に、便宜上、ア～キの記号を振って、考えやすくしてみます。



③具体的な指導内容を考えます ～「自立活動編」の確認～

心理的な安定

(1) 情緒の安定に関する事 ... 項目ア



なるほど。言動が荒れた後の気持ちの収め方を指導していくという発想はありませんでした。A児にとってこれらも指導の視点として大切だと思います。

(2) 状況の理解と変化への対応に関する事 ... 項目イ



確かにA児は場所や場面の变化に弱いと思います。まずは、場面と人を固定してから、カードの使い方に慣れて、成功体験を積むことが大切だと思います。

人間関係の形成

(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 ... 項目ウ



なるほど。A児の人に対する基本的な信頼感は弱いと思います。まずは、人と一緒にいることで安心したり、やりとりすることを楽しいと感じたりする経験を十分に積むことが大切なんですね。それを基盤として、要求表現の方法の獲得に取り組んでいかなければいけないんですね。

環境の把握

(2) 感覚や認知の特性に関する事 ... 項目エ



A児はここに書いてあるとおり、聴覚からの情報は理解しにくくても、視覚からの情報の理解は優れています。絵カードを活用しての要求表現の指導を取り入れていけばよいということですね。

(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事 ... 項目オ



でも、絵カードを活用できるようになるためには、その基礎となる概念を育てていく必要があるということかな。そもそも、実物と絵カードのマッチングができない段階で、要求表現の手段になるはずがないですね。

コミュニケーション

(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 ... 項目カ



まず、A児の行動に表現されている意思や要求を私たちが理解することが大切なんですね。それとともに、その表現方法を望ましい方法に導いていくことを考えていく必要があるんですね。今は、A児の表現は決して望ましいものとはいえません。ただし、方法だけを無理やり指導するのではなく、伝わったという成功経験の積み重ねこそが方法の定着につながるんですね。

(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 ... 項目キ



A児には、話し言葉を補うために、カード等を活用して、ぜひ、要求が伝わった喜びを味わってほしいです。そして、自分から人と関わろうという意欲をどんどん高めていてもらいたいです。



項目アとウはどちらもA児の情緒の安定に関わる項目だと思います。そこで、項目アとウを関連付けながら、A児が人に対する安心感ややりとりの楽しさを感じて、人に対する信頼の気持ちをもてるようにしたいです。併せて、情緒の安定を図ることもねらいたいです。でも、言動が荒れることもまだまだあるように思います。そのときの気持ちの収め方も含めて、具体的な指導内容が一つまとまりそうです。



好きな手遊びやふれあい遊びを通して、基本的な人との信頼関係を育てるとともに、情緒の安定を図りたい。



項目エは得意な認知の活用に関すること、項目オは概念形成に関すること、項目キは適切なコミュニケーション手段を身に付けていくことに関する事です。これらの項目を関連付けながら、A児の得意な視覚情報を活用し、概念形成を図ることでマッチングの力を高め、絵カードによる表出手段を習熟させていきたいです。そうすることで、自分の意思を適切に伝える基礎的な力を育てたいです。このように考えると、絵カードの習熟に関する指導内容が一つまとまりそうです。



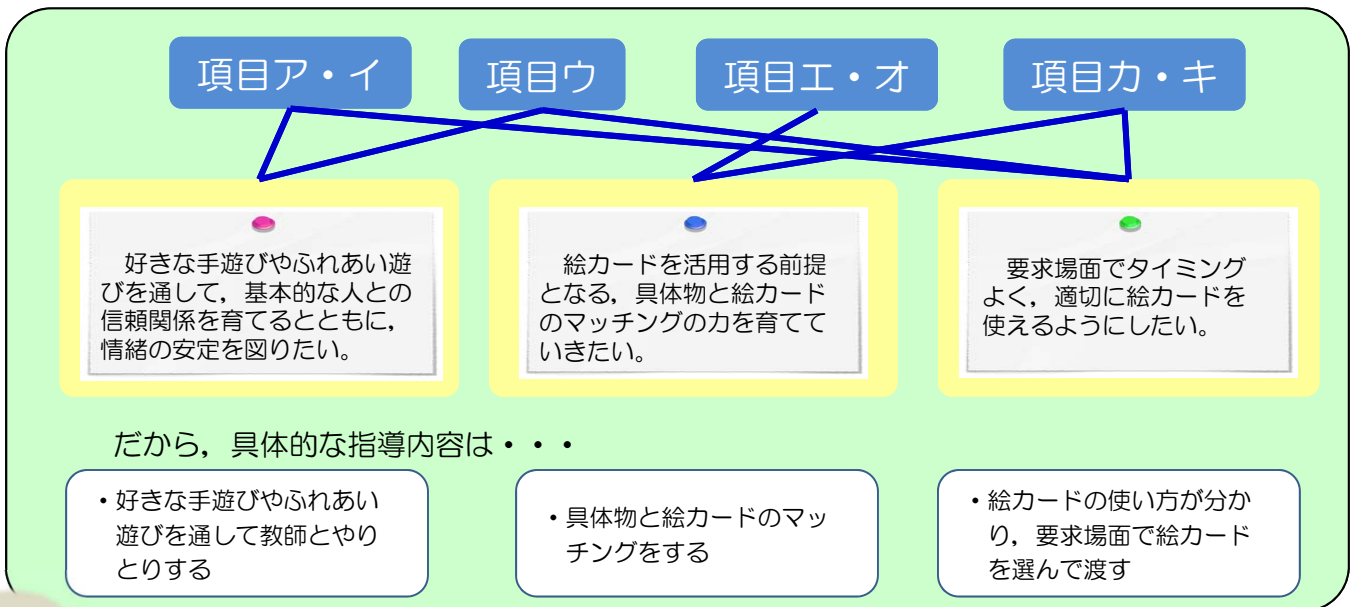
絵カードを活用する前提となる、具体物と絵カードのマッチングの力を育てていきたい。



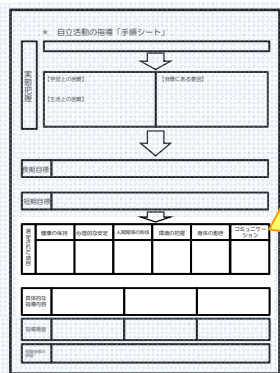
項目イは場面の固定化に関すること、項目ウは、例えば、教師との安定した関係に基づいてやりとりの方法を定着させていくこと、項目カとキはコミュニケーションの基礎的な能力や手段に関する事です。これらを関連付けながら、場面を要求場面と特定した上で、絵カードという手段での意思表示を定着させるという具体的な指導内容が考えられそうです。その際には、伝わったという成功体験を積み重ねることが大切なんですよ。



要求場面でタイミングよく、適切に絵カードを使えるようにしたい。



④具体的な指導内容を考えます ～シートへの転記～

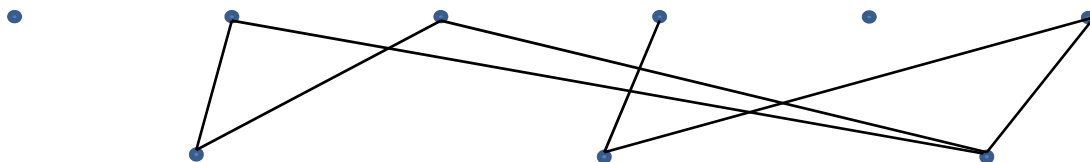


※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)



考えたことを自立活動の指導「手順シート」に書いてみるとこんなふうになるのかしら。

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目		(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること	(2)感覚や認知の特性への対応に関すること (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること		(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること



具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 好きな手遊びやふれあい遊びを通して教師とやりとりする 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物と絵カードのマッチングをする 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードの使い方が分かり、要求場面で絵カードを選んで渡す
----------	--	---	--

私にも具体的な指導内容を考えることができました。A児との基本的な信頼関係を築きながら、私に要求を伝えてくれるよう頑張ってみようと思います！



「自立活動編」の第7章「自立活動の指導計画の作成と内容の取扱い」には、具体的な指導内容を設定する際の配慮点が書かれています。次の点に配慮しながら考えていきましょう。

- 取り組みやすく「やってみよう」と思える。「やったらできた、上手になった」と実感できる。
- 座学よりも実際の活動を重視する。
- 得意な面、進んでいる面を活用する。
- 自分なりの工夫や方法が分かる。

自立活動として指導したことが実生活の中で使えるようになるという視点も忘れないようにすることが大切です。

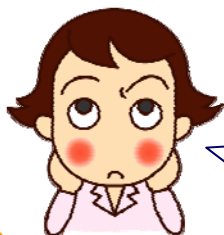


(4) 指導場面の設定 具体的な指導内容をどの場面で指導するか考えます

※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

具体的な指導内容を、どの場面でどんな方法で指導するか考えてみましょう。各教科等の指導を行う場合にも、その子の困難に配慮することが必要です。自立活動で設定している目標や具体的な指導内容との関連付けをしましょう。

教員間で指導の方法等を共通理解しながら進めていきましょう。



授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導、各教科等の指導に関連付けた指導の場面、各教科等を合わせた指導の場面・・・どこで指導するといいいかな？

指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 好きな手遊びやふれあい遊びを通して教師とやりとりする 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物と絵カードのマッチングをする 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードの使い方が分かり、要求場面で絵カードを選んで渡す
------	--	---	--



指導場面	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間 音楽の始まりの手遊び歌の場面 昼休みの遊びの場面 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間 算数の弁別や分類の学習の場面 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間 日常生活の場面 生活単元学習の時間に欲しい道具や材料を要求する場面 ・ ・
------	---	--	---



一つの指導内容が一つの場面でしか指導できないということはないですよ。指導内容をどこで取り入れることができるか、各教科の指導や各教科等を合わせた指導等の授業を見直してみましょう。自立活動の目標や具体的な指導内容を絶えず意識しておくことで、いろいろな場面で指導が可能になります。また、指導が継続されることで、目標や具体的な指導内容を修正しながら、より良い指導へつなげていくこともできますよ。

本当ですね。手遊びは音楽の時間、絵カードは自立活動の時間にしかできないと思っていました。学校生活全体で指導することの意味が分かりました。自立活動の目標や具体的な指導内容をきちんと意識しておくことが丁寧な指導につながるのですね。A児に関わる複数の教員で共通理解していきたいと思えます。



5 自立活動の評価について

自立活動の評価は、どうすればいいのかしら？
記録は、残しているんだけど・・・？

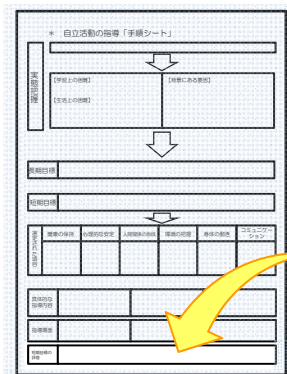


目標の達成のために必要な、具体的な指導内容をいくつか設定していると思います。

- ① 具体的な指導内容を指導してどうであったか、一定期間記録をとり整理しましょう。その記録が、短期目標を評価するための材料となります。
- ② 設定した全ての具体的な指導内容の評価を総合して、短期目標の評価をしていきます。

短期目標を評価をするときには、まず、目標がどの程度達成されたか評価しましょう。次に、目標が適切であったか、具体的な指導内容が適切であったか、指導方法は適切であったかについて整理し、指導の成果と課題、改善点を考えていきます。

短期目標 教師の促しがある場面で、担任に、絵カードや身振り等で自分が欲しいものやしてほしいことの要求を伝えることができる。



※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

	成果と課題	改善点
短期目標の評価	<p>好きな手遊び等に取り組んできたことで、教師と基本的な信頼関係ができ、自立活動の時間における指導の場面では、2枚のカードの中から欲しいおもちゃや絵本、好きな手遊びのカードを選んで教師に渡し、伝えることができるようになってきた。</p> <p>各教科等の指導や各教科等を合わせた指導場面では、選択肢が興味のないものであると、その中から選ぶことは難しかった。友達が選んだものが気になった。</p>	<p>教材を選定するときA児の興味のあるものを活用することで、選択できるようにし、友達のものへの関心を少なくすることができるのではないかと。</p> <p>設定された場面での選択肢を増やすようにする。</p>

自立活動の指導は、実態を的確に把握した上で個別の指導計画を作成して行いますが、計画は当初の仮説に基づいて立てた見通しです。子どもにとって適切な計画であるかどうかは、実際の指導を通して明らかになるものです。子どもの学習状況や指導の結果に基づいて、計画は適宜修正を図る必要があるということです。

また、評価は子どもの学習に対する評価であるとともに、教師の指導に対する評価でもあります。指導を継続している間、「目標の達成に近づいているか」「教材・教具に興味をもって取り組んでいるか」等絶えず学習状況を評価し、日頃から指導の改善に取り組めるといいですね。



自立活動の指導に取り組んだことで、A児は、欲しいものがあると絵カードで教師に伝えることが増えてきました。そのため、自傷行為や混乱して泣くこと等が少なくなってきました。もっと確実に伝えられるように指導を継続したいと思います。

A児に関わる複数の教員で話し合いながら評価の妥当性を高めていくことも必要ですね。

< 実践編 >



1 特別支援学級実践例

* 特別支援学級実践例を読むに当たって



ここからは、特別支援学級の実践を2事例（小学校・中学校）紹介します。
まずは、指導の実際を読んでいくに当たって、自立活動の指導の流れを示したレイアウトの説明をしておきたいと思います。

(i) 8ページに示す自立活動の指導「手順シート」を活用しながら、短期目標や具体的な指導内容を設定します。

(ii) (i)で設定した短期目標の達成に向けて、教育活動全体を通して指導を継続して行います。そのことを下向きの矢印で示しています。

(iv) これ（「☆」）は、教育活動全体を通して行った自立活動の中で、特に目標達成に関連が深い指導場面を取り上げて示しています。
ただし、ここに示す場面以外にも継続的に指導を行っている場面があることに留意してください。

(v) 教育活動全体を通して行う指導の成果として「日々の生活の中で見られるようになった姿」を示しています。
自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を克服・改善するものです。
そのため、短期目標の評価に当たっては、普段の学習や生活の中での変容を確認することが大切になります。

(vi) 「日々の生活の中で見られるようになった姿」を確認した後、短期目標の評価を行っています。
手順編13ページに示したとおり、この評価に基づいて、次期短期目標や指導の手だてを修正します。この修正こそが、自立活動の指導において重要なポイントになります。



教育活動全体を通して行う指導

★ 自立活動の時間における指導

本時の目標：

主な学習展開

授業後に見られた姿

☆ ○○（例：休憩時間）における指導

★ 自立活動の時間における指導

本時の目標：

主な学習展開

授業後に見られた姿

(iii) これら（「★」）は、時間割に特設された自立活動の時間です。教育活動全体を通して行う指導の中心であり、目標達成のために必要な知識や技能を獲得したり、習熟したりする時間となります。

日々の生活の中で見られるようになった姿

短期目標の評価	成果と課題	改善点

(1) 小学校知的障害特別支援学級B児のケース

知的障害があり、自閉症の診断もあるB児の例

B児は第4学年で、知的障害があり、自閉症の診断もあります。穏やかな性格で、何事にも真面目に取り組むことができます。しかし、不安が高まると独り言が増える等、言動が乱れてきます。このようなB児に対する自立活動の指導目標を考えるに当たって、保護者と一緒に学習上又は生活上の困難を整理していきました。その際、困難だけでなく、できることや、医療機関の所見も加えることで、多面的に情報が収集できるように留意しました。

実践編(学級)

素直な性格である。	場の空気を読むとしている。	決められたことには最後まで取り組むことができる。	宿題をきちんとすることができる。	切り換えが上手になってきた。	明るく陽気な性格である。
待つことができる。	文字を書くこと、読むことに興味がある。	簡単な問いかけには「はい」や動作で意思表示を行う。	だんだん字をきれいに書けるようになってきた。	決められたことはきちんと守れるようになった。	困ると泣いたり固まったりすることがある。
二語文程度を話すことができつつある。	1分間スピーチでの受け答えが苦手である。	手先に不器用さがある。	独り言を何度も繰り返し言うことがある。		
他者を受け入れ始めている。	関心が移りやすい。	新しいことへの抵抗がややある。(掃除場所の変更等)			
	ルールのはっきりしないことへの対応が苦手である。	答えに困るとその場から逃げることもある。			

担任 (左)

保護者 (右)

姿勢の保持が難しい。	応答はパターンのである。	相手の発話の一部をそのまま繰り返し言うことがある。
視線が合いにくい。	言語的コミュニケーションが苦手である。	

医療機関 (右)

グルーピングして分類・整理しました

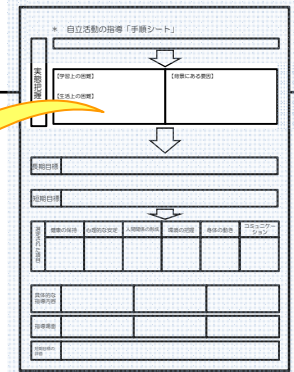
<p>言語によるやりとり、コミュニケーションの難しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語的コミュニケーションが苦手である。 相手の発話の一部をそのまま繰り返し言うことがある。 応答はパターンのである。 1分間スピーチでの受け答えが苦手である。 視線が合いにくい。 答えに困るとその場から逃げることもある。 	<p>言語、コミュニケーションに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの育ち <ul style="list-style-type: none"> 他者を受け入れ始めている。 簡単な問いかけには「はい」や動作で意思表示を行う。 二語文程度を話すことができつつある。 	<p>不安、混乱</p> <ul style="list-style-type: none"> 独り言を何度も繰り返し言うことがある。 困ると泣いたり固まったりすることがある。
<p>手指の巧緻性の低さ</p> <ul style="list-style-type: none"> だんだん字をきれいに書けるようになってきた。 手先に不器用さがある。 姿勢の保持が難しい。 	<p>文字への興味</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字を書くこと、読むことに興味がある。 	<p>性格</p> <ul style="list-style-type: none"> 明るく陽気な性格である。 素直な性格である。
<p>集中の短さ</p> <ul style="list-style-type: none"> 関心が移りやすい。 	<p>その他</p>	<p>状況の理解や変化への対応に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> パターンのな活動での安定 <ul style="list-style-type: none"> 決められたことには最後まで取り組むことができる。 新しいことへの抵抗がややある。(掃除場所の変更等) ルールのはっきりしないことへの対応が苦手である。 決められたことはきちんと守れるようになった。 宿題をきちんとすることができる。 待つことができる。 切り換えが上手になってきた。 場の空気を読むとしている。

伝わらない... (言語)

うまくできない... (手指)

対応できない... (不安)

付箋で分類・整理した学習上、生活上の困難や背景にある要因をシートに整理していきました。

実態把握	<p>【学習上の困難】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「～が～したね」といった二語文程度の話はできるが、1分間スピーチ等での受け答えは苦手である。 学習場面では、新しいことやルールのはっきりしないことについての抵抗があり、不安や心配が高まると独り言を何度も繰り返したり、泣いたり、固まったりする等の不適応状態が生じる。 <p>【生活上の困難】</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段の生活での言葉のやりとりは、パターンの応答になることが多く、時折、相手の発話や質問の一部をそのまま繰り返して言うことがある。 日常生活場面で、簡単な問いかけには「はい」、「いいえ」の言葉や、首を振る等の動作で意思表示を行うことができるが、答えに困るとその場から逃げてしまうことがある。 	<p>【背景にある要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> 想像力の弱さ 言語理解の弱さ 言語表出の弱さ 語彙の少なさ 意思伝達としての言語的応答経験の少なさ
	 <p>※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)</p>	

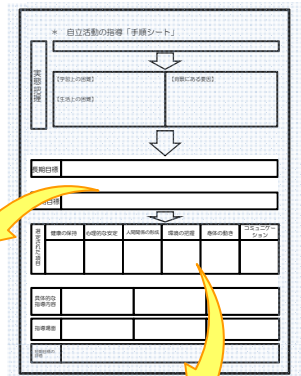
実践編(学級)

自立活動の目標設定の際のキーワードは「これができたら、これが改善されたら、学習や生活がもっと楽になるだろうな…」でした。そこで、B児の「これ」は何になるかを考えました。



保護者と一緒に付箋紙を分類・整理する中で、B児のしんどさがコミュニケーション場面で多く生じているように思われました。家庭と学校で更に観察していくと、B児は言葉を使って話すものの、それが意思伝達の有効な手段であるという認識が弱いと感じられました。また、周囲の人と関わりたいという思いもあるのですが、上手く関われないことがストレスになって、独り言が増えたり、固まってしまうたりすると感じられました。必要な場面で周囲の人たちと言葉を使って意思疎通ができるようになることは、B児の学習場面や生活場面を大きく変えそうです。そこで、B児の一年後の期待される姿を想定し、長期目標を次のように設定しました。

長期目標	場面に応じた言葉の使い方を身に付け、言葉を使って自分から周りの人に働きかけることができる。
短期目標	二語文程度の定型の話形を身に付け、校内の教師や特別支援学級の友達に、言葉を使って自分から意思を伝えることができる。



選択された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1)状況の理解と変化に対応すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること (2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること	(2)感覚や認知の特性への対応に関すること		(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2)言語の受容と表出に関すること (3)言語の形成と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 好きなキャラクターやカード等を介して教師や友達とやりとりをする。 他者に関心を向け、定型の話形で周りの人に関わる。 言葉に関心をもち、理解言語による説明や語りかけに注目して行動する。
指導場面	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間 休憩時間 行事 自立活動の時間 朝の会・帰りの会 給食時間 登下校の挨拶場面 自立活動の時間 国語の学習

★ 自立活動の時間における指導「定型の話形を身に付けよう～Part I～」

本時の目標： あいさつの意味や種類、行う場面を確認し、場に応じたあいさつをすることができる。

主な学習展開

注：「*」は教師の配慮事項(以下同じ)

- 1 どんなあいさつをどんな場面でするかを考える。
 - ・ あいさつの種類と場面絵カードとのマッチングをする。
 - ・ ロールプレイをする。
- 2 あいさつされた相手の気持ちを考える。
 - ・ コミック会話の吹き出しを活用して、相手の気持ちを考える。
- 3 学習の振り返りをする。

授業後に見られた姿

- 特別支援学級では、教師が登下校のあいさつ、給食時間の場面等を捉えて、タイミングよくあいさつを促す等の支援を行い、徐々に定着してきた。
- △ 教室以外の場面ではあいさつができていないことが多く、日々の生活の中で、機会を捉えて指導を行っていくことを心がけた。

★ 自立活動の時間における指導「定型の話形を身に付けよう～Part II～」

本時の目標： 特定の場面(遊び、着替え)で依頼する際の受け答えができるようになる。

主な学習展開

- 1 大好きなブランコに乗りたいたきの依頼の仕方を知る。
 - ・ 「入れて」「いいよ」という話形を身に付け、ロールプレイをする。
- 2 着替えて、困ったときに助けを求める話形を知る。
 - ・ 手先の不器用さから困難が生じやすい着替えの場面に特化して、「手伝ってください」という話形を身に付け、ロールプレイをする。
- 3 学習の振り返りをする。



授業後に見られた姿

- これまでは自分がブランコに乗っていると、他の人に代わることはできなかったが、話形を学習した後、友達から「入れて」と言われて「いいよ」と返し、代わることはできた。
- ボタンをはめられなくて「できん、できん」と混乱していたが、教師が「どう言えばよかった？」と声をかけてきっかけをつくと、自分から「手伝ってください」と言うことができた。このことで落ち着きを取り戻し、教師にボタンをはめるのを手伝ってもらって、笑顔になった。
- * その際に「言葉を上手に使えたね。言葉を使えば楽になるよね」と言語化し、定着への意欲を高めた。

☆ 休憩時間における指導

- B児の好きなキャラクターやカードの話題でやりとりを楽しむ。
- * 教師はB児の好きなキャラクター等を事前に把握しておき、B児に意図的に話題を振ったり、思いに共感したりすることで、人への関心を高め、会話でやりとりする楽しさを味わえるようにする。
- * 休憩時間に人と過ごす楽しさを十分に味わわせる。

- 休憩時間には一人遊びが多かったが、友達に近寄ってみたり、肩をたたい誘ったりする等、徐々に関わりを求めようとする姿が見られるようになった。

★ 自立活動の時間における指導「身近な生活関連の言葉を知ろう」

本時の目標： 身近な生活関連の言葉を知り、実物とマッチングすることができる。

主な学習展開

- 1 平仮名カードを並べながら、2音節や3音節の単語をつくる。
- 2 できあがった単語を読み上げながら、その単語が表す絵カードとのマッチングをする。
- 3 教室にある実物とのマッチングを行いながら、身近な事物と言葉とを照合していく。
- 4 身近な動作を表す単語についても動作絵カードと照合しながら、使える言葉を増やしていく。

授業後に見られた姿

- これまでの学習で、言葉には自分の思いや要求を伝えたり、状況を変えたりする機能があることに気づき始めている。
- 本時の授業後に、すぐに劇的な変容があったわけではないが、無意味な独り言や相手の発話の単なる繰り返しが減ってきていると感じられる。

☆ 算数の学習に関連付けた指導

算数でかけ算九九（以下「九九」という）の習熟を図るために、様々な機会を捉えて九九を唱える学習活動を設定した。職員室の教員にも、九九の習得状況のチェックを依頼した。

その際、B児が教師に自分の暗唱する九九を聞いてもらうよう依頼する場面が生じることが予想された。その場面は、自立活動の指導を関連付けられると考えられた。そこで、次のようなB児の姿を目指して、指導を行った。

- ・ 担任以外の教師に言葉で依頼することができる。
- ・ 依頼を断られたときに適切に振る舞うことができる。

注：B児には知的障害があるため、下学年対応の教育課程を組んでいる。そのため、B児の学年は第4学年であるが、九九の学習に取り組んでいる。

指導の実際

- 算数で覚えた九九を担任以外の教師に依頼して聞いてもらう活動を行った。九九を聞いてもらう教師とのやりとりを事前に練習する。
 - ・ 「九九を聞いてもらえますか」と依頼する。
 - ・ 教師から「いいですよ」と言われたら、「〇の段を言うので、よろしくお願いします」と言って、九九を聞いてもらう。
 - ・ 教師から「今は忙しいからだめです」と言われたら、「分かりました」と答え、「今度よろしくお願いします」と言って、その場を立ち去る。
- * 依頼する相手の事情があることを事前にコミック会話等で知らせ、断られる想定ができるようにしておく。
- * 断られることもB児の学習であることを事前に依頼する教師に伝えておく。

- 定型の話形を身に付けておくことで、安心して校長や教頭にも依頼することができ、また、九九が上手に言えたときには褒められて嬉しそうだった。
- 断られても、それを受け入れて混乱することなく教室に帰ってくるのができた。その際には十分褒め、適切な振る舞いが定着するように関わった。
- △ 九九を唱えた後、教師からかけてもらった言葉に対して上手く返答することができず、何も言わずにその場を離れることが多く、今後の課題である。

実践編（学級）

☆ 朝の会・帰りの会における指導

- 1分間スピーチで話し終えた後、聞いていた人からの質問に答えることができる。
- * 質問はクローズドクエスションになるようにまずは教師が行う。
- * 慣れてきたら、他の児童にもクローズドクエスションか「はい」「いいえ」で答えられる質問をさせる。
- B児は聞き逃さないように、質問の内容を聞き取って答える。

- 質問の意味が理解できたときには、「はい」「いいえ」等の言葉で受け答えができることが増えてきた。
- △ 質問の意味が理解できないときには、相手の質問を単に繰り返して言うこともある。



日々の生活の中で見られるようになった姿

※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

- ・ 自分から特別支援学級の友達に関わりを求めて近寄っていくようになった。
- ・ 友達の言葉を取り込むことができるようになり、他の児童が「〇〇くん、たいたいだめ」と言っていた言葉を、場面に応じて自分から使っている姿が見られた。
- ・ 困ったときには泣いたり、固まったりすることが多かったが、言葉による訴えが増えてきた。

↓ その結果…！

- 言葉で人に関わったり、助けを求めたりすることができるようになってきた。
- 不安なときに頻発していた独り言を言うことがほとんどなくなった。
- 家庭でも泣いたり、固まったりすることが少なくなってきた。

* 自立活動の指導「手順シート」	
事前準備	学習目標の明確化、学習内容の提示
実践	学習目標の達成に向けた指導
振り返り	学習目標の達成状況の確認
評価	学習目標の達成状況の評価

短期目標の	成果と課題	改善点
評価	二語文程度の定型の話形が身に付き、言葉を自発的に使って意思を伝える場面が増えた。その結果、不安定な状態になった際に見られていた独り言等が少なくなった。ただし、やりとりになると、ちぐはぐになることが多い。	話形が手がかりになって意思伝達の機会が広がっており、まずは、授業や朝の会や帰りの会等、定型化されている場面の中でやりとりを広げていきたい。

(2) 中学校知的障害特別支援学級生徒Cのケース

知的障害の生徒Cの例

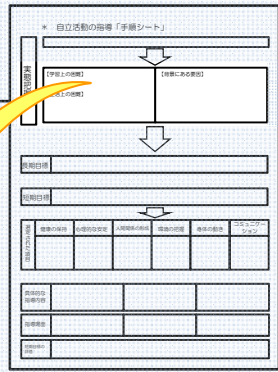
生徒Cは第1学年で、知的障害と診断されています。自立活動の目標を設定するに当たって、生徒Cの実態について、次に示しているようなプロフィール表にまとめて整理しました。

※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

項目	内容
得意なこと、好きなこと、興味・関心の強いこと	<ul style="list-style-type: none"> ・マイブーム(塗り絵、折り紙、あやとり、一輪車)がある。 ・テントウムシやクモ等、身近な虫を観察することが好きである。 ・俳句を作ることが好きである。
苦手なこと、嫌いなこと、避けなければならないこと	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の思考を要する問題はあまり得意ではない。
身辺処理	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でできる。 ・日常生活で困ることはない。
健康の保持	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題なし(斜視の関係で通院することはない)。 ・健康である。 ・野菜が嫌いであ給食を残すことが多い。完食できると嬉しくて、支援員や教師に報告する。
心理的な安定	<ul style="list-style-type: none"> ・情緒は安定している。 ・不安なときは声を出さず、慣れている友達や教師のそばにすることが多い。時に、教師の肩にあごを乗せてくることもある。
環境の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての場所・環境に慣れるまでに時間がかかるが、慣れるとその場に合った行動ができる。
身体の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題なし。 ・身体の動きはスムーズで困ることはない。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての場所・人には慣れるまでに時間がかかる。 ・職員室に一人で行って係の仕事をするのが苦手である。 ・困っていても言葉で伝えることができにくい。 ・特別支援学級の中や親しい人の中では自分からよく話すが、交流学級や部活動等の場面では話さないことが多い。 ・特別支援学級では積極的に友達に話しかけたり、関わったりすることができ、お茶目な面も多々ある。
知的、認知	<ul style="list-style-type: none"> ・数量的なことを理解するのに時間がかかる。 ・繰り返し取り組む努力ができ、知識や技能が定着することもある。 ・分かりにくいことになると集中力が下がり、遠くを見るような表情になることが多い。
小学校からの情報	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときや見通しがもてないときには、自分から言い出せず涙ぐむことがある。交流学級内や特別支援学級以外の場面では、友達との会話がほとんどなく意思表示ができにくい。

項目		現在の希望	将来の希望
本人	生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活に慣れる。 ・休まず学校に行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立・就労
	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習を頑張る。 ・部活動(卓球部)を休まず頑張る。 ・いろいろな場面において自分を表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校(高等部)→就労
保護者	生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・休まず学校に行く。 ・たとえ嫌なことがあっても負けないで乗り越えてほしい。 ・いつも笑っていてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立(洗濯・炊事・掃除・買い物等、一通りのことはできるようになってもらいたい。) ・就労(職に就いて、途中でやめたりせず続けてほしい)
	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強面では自主学習を毎日続ける。 ・部活動では休まず行き、勝ちにこだわってほしい。 ・必要な場面でコミュニケーションがとれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校(高等部)→就労 ・自立した生活ができる。 ・人とコミュニケーションがとれる。

プロフィール表に記述した内容を学習上、生活上の困難として整理しました。そして、それらの背景にある要因を考えてみました。

実態把握	<p>【学習上の困難】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活ノートの反省欄等には「〇〇をがんばった」の一文でしか書いていないことが多く、語彙が少ないために内容を詳しく伝えることができにくい。 どの教科も一生懸命に取り組むことができ、できたことを素直に喜ぶことができるが、分からなかったり、困ったりしたときに黙り込んでしまうことが多い。 <p>【生活上の困難】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級等、慣れた場面ではコミュニケーションができるが、交流学級や部活動の中では、コミュニケーションをとることができにくい。 困ったことを人に伝えることが苦手である。 苦手なことは人任せにすることが多い。 	<p>【背景にある要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> 語彙の少なさ 言語表出の弱さ 状況理解の弱さ ソーシャルスキルの少なさ 上記の要因に由来する自己肯定感の低さ
	 <p>※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)</p>	

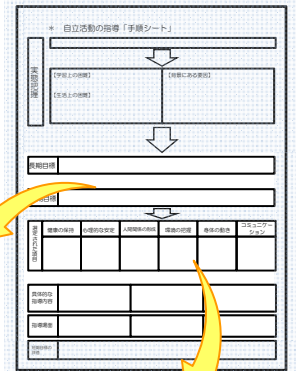
実践編(学級)

自立活動の目標設定の際のキーワードは「これができれば、これが改善されたら、学習や生活がもっと楽になるだろうな…」でした。そこで、生徒Cの「これ」は何になるかを考えました。



生徒Cの場合は、慣れた状況の中ではできているコミュニケーションが、不慣れた状況ではできないことが学習上、生活上の困難を大きくしていると思われます。そこで、保護者の願いや小学校からの情報も兼ね合わせて、今後、慣れていない場面や少し緊張を伴う場面においても必要とされるコミュニケーションをとれることが、生徒Cの学習や生活を楽に、そして豊かにするのではないかと考え、長期目標を設定しました。

長期目標	慣れない場面や緊張を伴う場面でも必要に応じて自分から報告や依頼をすることができる。
短期目標	交流学級や職員室で自分から言葉や動作で意思伝達をすることができる。



選択された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
			(1)状況の理解と変化に対応すること (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の理解に関すること	

具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ゲームやインタビュー等を等を通して会話することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 困った場面において、どんな解決方法があるかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員室や交流学級等で自分の意図を伝える。
指導場面	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間 休憩時間 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間 朝の会・帰りの会 授業時間 給食時間 部活動 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間 係活動 授業(交流学級) 休憩時間

★ 自立活動の時間における指導「安心して声を出そう！会話を楽しもう！」

本時の目標： 友達や教師と双六ゲームを楽しみながらスピーチしたり会話したりすることで、人との会話を楽しもうという意欲や話すことへの自信をもつ。

主な学習展開

- 1 コミュニケーションの課題が書かれている手作り双六のコマの指示に従って、楽しみながらスピーチをしたり、しりとりをしたりする。
* コマに書かれている指示に従って課題をこなすことを目指すが、上手くできない場合も指摘したり修正したりせず、明るく共感的な雰囲気の中で十分に声を出すことを楽しむことを大切にする。
- 2 自分の順番以外の場面では、友達のスピーチを聞いて、言葉を返したり、表情や動作でリアクションしたりする。
- 3 学習の振り返りをする。

授業後に見られた姿

- テーマに沿った話を考えて楽しく話すことができた。授業以降も、教室で友達と雑談を楽しんだり、ゲームを楽しんだりする姿が見られるようになった。
- 係活動で、健康観察板を届ける養護教諭を招き、一緒に双六ゲームを楽しむことができた。職員室で係活動を行う際の緊張感を軽減する一助になると思われた。

【双六ゲーム】

- お話カード…黄
- 学習カード…ピンク
- じゃんけんカード…紫
- クイズカード…緑

※ 止まったマスの色と同じ色のカードを引いて、カードの指示に従いながら、ゴールを目指すゲーム。カードの内容は生徒の実態に合わせて調整する。



★ 自立活動の時間における指導「困ったときにどうしよう～Part I～」

本時の目標： 困った場面ではどうすればよいのかを考え、どんな解決方法があるかを知る。

主な学習展開

- 1 授業中に困ったときの場面についてどうすればよいかを考える。
 - ① 先生が言っていることが分からないときはどうしよう？
 - ② おなかが痛くなったときはどうしよう？
 - ③ トイレに行きたくなったときはどうしよう？
 (1) 解決方法を考える。
 (2) ロールプレイをする。
- 2 教師がいない場面で困ったときにどうすればよいかを考える。
* 支援員や手がかりになる友達の名前を具体的に挙げ、実際の対処法になるように展開する。

授業後に見られた姿

- 困った場面での対処法を知識として理解し、ロールプレイによってスキルとしての習得もできた。
- △ 授業後、習得したスキルを日常生活場面で活用する等の顕著な変容はすぐには見られなかった。
- * 日々の生活の中で、機会を捉えてスキル活用の指導を行うことを心がけた。

授業で活用したワークシート

困ったときにどうしよう！

名前 ()

授業中に困ったこと、よくわからないことを挙げてみよう！

おなかが痛くなったときはどうしよう？

トイレに行きたくなったときはどうしよう？

先生が言っていることが分からないときは、どうしたらいいでしょう？

☆ 普段の生活における指導

特別支援学級の中で

- 指導場面の想定
 - ・ 困ることが予想される場面を予めピックアップしておく。
 - ・ 生活や学習の自然の流れの中で意図的に困る場面を設定する。
- ターゲット場面での繰り返し指導
 - ・ 「困った時はどうするんだっか？」と教師が問いかけることを手がかりとして、本人が意思表示できるようにする。
 - ・ 意思表示ができたときはすかさず褒め、成功体験として蓄積できるようにする。

交流学級の中で

- 「分からないとき」は「分かりません」と意思表示する。
- 「困ったとき」は「困っていること」を教師・支援員に伝える。

【伝え方】

 - ① 教師・支援員の顔を見る。
 - ② 教師・支援員に手で合図をする。
 - ③ 教師・支援員を呼ぶ。
 - ④ 友達に聞く。

本人の自発的な行動を誘導する支援を心がける。

これらの指導は、学習時間に限らず、あらゆる場面を捉えて指導を行う。

★ 自立活動の時間における指導「自信をもって職員室での係活動をやり遂げよう」

本時の目標： 職員室の入退室の際の話形や立ち居振る舞いを確認し、実地練習をした後、自信をもって職員室での係活動をやり遂げることができる。

主な学習展開

- 1 職員室への入退室の際の振る舞いや話形を確認する。
- 2 できる見通しと自信をもつことができるよう教室でリハーサルを行う。
- 3 職員室への入退室に対する抵抗感の軽減が図られるよう実際に職員室に行って入退室のルーティンを行ったり、職員室にいる教師と会話を交わしたりする。
- 4 学習の振り返りを行う。



授業後に見られた姿

- 入学当初は職員室に一人では入れず、係の仕事ができなかったが、友達と一緒に職員室に入室できるようになった。
- 入室の際は、礼をする動作のみだったが、時折、声が出るようになった。その際にはすかさず褒めることを続けた。
- 徐々に職員室に一人で入室できるようになり、1学期中には「失礼します」「〇〇先生に用があって来ました」と言えるようになった。その結果、健康観察板を養護教諭に届けるという自分の係活動をやり遂げることができるようになった。

★ 自立活動の時間における指導「困ったときにどうしよう～Part II～」

本時の目標： 緊張感のある場面で困ったことが生じた際に、自分から教師や支援員に言葉で助けを求めることができる。

主な学習展開

- 1 設計図を見ながら個別で作品作りを行う中で、困ったときに自分から教師や支援員に助けを求める。
 - * 設計図を見ながらの個人作業で進め方が分からなくなる可能性が高く、助けを求める場面が生じやすい。
 - * それぞれの生徒が集中して作業を行うため、静かで声を出しづらい雰囲気があり、生徒Cにとっての困難度は高い。
- 2 自信を深めることができるように、言葉で教師や支援員に助けを求める経験をする。
 - * 助けを求めることができたときには、すかさず褒める。

授業後に見られた姿

- 徐々にではあるが、静かな雰囲気の中でも、困ったら声を出して必要な助けを求める姿が見られるようになった。
- 特別支援学級では、どのような場面でもほぼ自分から必要な意思伝達ができるようになった。
- △ 交流学級でも以前に比べるとできることが多くなってきているが、場面によっては自分から意思表示ができないこともある。

助けてもらえますか？

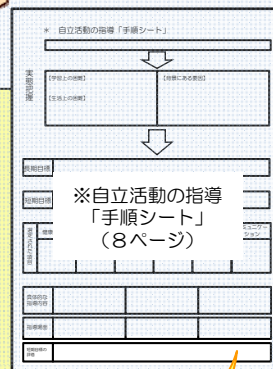


日々の生活の中で見られるようになった姿

- ・ 交流学級の担任に一人で質問に行くことができるようになった。
- ・ 部活動で特定の先輩との人間関係ができ、その先輩には意思表示が円滑にできるようになった。
- ・ 居住地交流で久しぶりに再会した友達に自分から話しかける場面が見られた。
- ・ 全校集会の場面で、自分から手招きして支援員に助けを求めることができた。

その結果…！

- 様々な面で自信がついてきて、声が大きくなった。
- 引っ込み思案だったが、意欲的に取り組もうとする姿が増えた。
- 保護者から普段の生活の中で生き生きとしている様子が感じられるという報告があった。



	成果と課題	改善点
短期目標の評価	特別支援学級で困ったとき、誰に助けを求めればよいのかが分かり、場面に応じた意思伝達ができるようになった。ただ、交流学級では自分から意思伝達ができない場面もまだあり、今後の課題である。	交流学級では、支援員を手がかりに意思表示ができ始めているので、一人で切り抜けられない場合は、支援員に依頼するという手段を用いることを定着させてい。

* 実践を振り返って・・・

小学校B児の実践の場合

実践編(学級)

この実践で注目すべきは、実態把握の際に、保護者にも一緒に付箋を書いてもらったり、医療機関からの情報も加えたりして、多面的に情報収集を行っていることです。

保護者と一緒に作業することによって、自立活動の目標を共有化でき、その目標達成に向けて共同歩調で当てることができます。自立活動の指導効果を応用させるのはなかなか難しいことです。保護者と連携しながら、学校、家庭で一貫した指導ができることの効果は図りしれません。

教師が日頃から保護者の方とよい関係を構築されていたからこそ、実現できたすばらしい取り組みだと思います。

また、B児には、独り言や相手の発話を単に繰り返してしまう反響言語等があり、言葉が意思伝達のツールとして十分機能していない場面が多々見られていました。そこで、教師は、言葉を使うことによる成功体験を多く積めるようにすることで、B児に、言葉が有効な意思伝達のツールであることを実感してほしいと考えました。それは、言葉が“便利なものである”とB児が実感できないと、意思伝達のツールとして定着していかないと考えたからです。

指導方法としては、B児の強みを生かして、場面に応じた話形指導に着目し、身近な場所や人を対象に指導を進めていかれました。つまり、初めから、その場に応じて臨機応変に言葉を使うことを目指すのではなく、まず、話形による応答パターンを身に付けることによって、“自分の依頼や要求を受け入れてもらった”とか“困った状況を助けてもらった”等の成功体験を積めるようにすることを目指したというわけですね。

その結果、B児は言葉による訴えが増えてきました。そして、以前に比べて、人に肯定的な関心を持ち、自分から関わりを求めようになりました。B児が人に対して以前より関心を示すようになったことは、B児の言葉が広がる上でとても大切なことです。実際に、友達の言葉を取り込んで、実際の場面でタイミング良く「たたいたらダメ」と言えたというエピソードもありましたね。



今は、B児が不安を抱いたり、混乱したりしたときに現れる独り言等が徐々に見られなくなってきています。

それから、先日は、遊びの場面で、自分から「入れて」と声をかけ、友達が遊んでいるところに入っていくことができました。

また、その場その場での臨機応変なやりとりになると難しい場面が多いですが、人がいる場所を避けたり、逃げたりすることは少なくなってきたように思います。今後のB児の成長が楽しみです。

中学校生徒Cの実践の場合

前出の小学校B児の実践と同様に、この実践の生徒Cもコミュニケーションに課題があります。

しかし、同じコミュニケーションの課題でも、生徒Cは、B児と違って、言葉を表出する力があります。例えば、特別支援学級等の慣れている場所や人間関係の中では、自分から話しかけたり、関わったりすることができます。

生徒Cの課題は、交流学級や職員室等の慣れない場所や緊張感のある場面でのコミュニケーションにありました。

そこで、着目したのは、言語表出の力ではなく、状況把握の力や認知、慣れない場面に対する極端な恐れや不安、過去の失敗体験等の心情面でした。

指導方法としては、ある特定の場面に絞って、成功体験を積むことで自信を高めること、そのために困難場面を乗り越えるための知識や技能を身に付けることでした。また、身に付けた知識や技能を実際に使えるようにするために、リハーサルを指導の中に位置付けることも大切にしていますね。

その結果、戸惑ったり迷ったりするときでも、以前のように、何もアクションを起こさないのではなく、声を出したり、動作で助けを求めたりする等、ポジティブな判断、選択をするようになってきました。そして、そのことが、生徒Cの生活の質を向上させているように感じます。何より、普段一番身近にいる保護者から、生徒Cが生き生きと生活している様子が感じられるようになったとの報告があったことは本当に素晴らしいと思います。



慣れない場面では、物怖じして、なかなかコミュニケーションがとれなかった生徒Cが少しずつ変わってきました。特に、毎日の職員室での係活動を一人でできるようになって自信が付いてきたようです。たくさんの教師に褒めてもらうことが生徒Cにとって励みになっています。

生徒Cは、今度、職場体験後の発表を特別支援学級で行うことになっているのですが、みんなの前で声を出して発表する気持ちになっています。特に、自分からその意思を私に伝えに来てくれたことが嬉しかったです。

交流学級の授業中でも、声を出して質問ができるときもあります。今がまさしく成長盛りなんでしょうね！

コラム ～集団で行う自立活動について～



子どもの障害の状態は、一人一人異なっています。自立活動の指導は、これまで述べてきたように、それぞれの障害による学習上又は生活上の困難に焦点を当てて行う指導です。そのため、一人一人の指導目標や指導内容も当然違ってくるわけです。

ですから、当然、自立活動の指導計画は個別に作成され、実際の指導も、個別指導の形態で行うことが基本になります。ただ、指導の目標を達成する上で効果的である場合には、集団を構成して指導することも考えられます。ですが、“集団指導、先にありき”ではないことに十分留意することが必要です。

2 特別支援学校実践例

(1) 小学部D児のケース

ア 児童の実態把握と個別の指導計画

小学部第2学年のD児は、自閉症とともに知的障害があると診断されています。アニメのヒーローになりきって遊んだり、タブレット端末でゲームをしたりすることが好きな男の子です。自分なりの見通しがもてると安心して過ごすことができます。しかし、学校生活では、教師や友達の言葉や活動の意味、状況が分からず、自分なりの理解に沿った行動にこだわってしまい、状況に応じた行動をとることができずに困ることが多くみられます。D児の自立活動の指導について考えてみることにしました。

- ① まず、D児に関わる教師が集まって、D児が困っていることや支援の手がかりになることを付箋に書き出しながら話し、付箋を整理して実態把握をしました。

実践編(学校)

気持ちが不安定になったときに人や物に当たってしまうなあ。

聴覚に過敏があるね。

カメラやビデオ、好きなキャラクターに変身して遊ぶのは好きよね。

個別でも集団でも学習活動に参加しにくいわ。

友達からの働き掛けを受けて遊ぶにくいことが多いなあ。

自分の思いや考えに固執して、広がりが少ないよ。

状況の読み取りにくさ

興味・関心の狭さ

言語理解の偏り

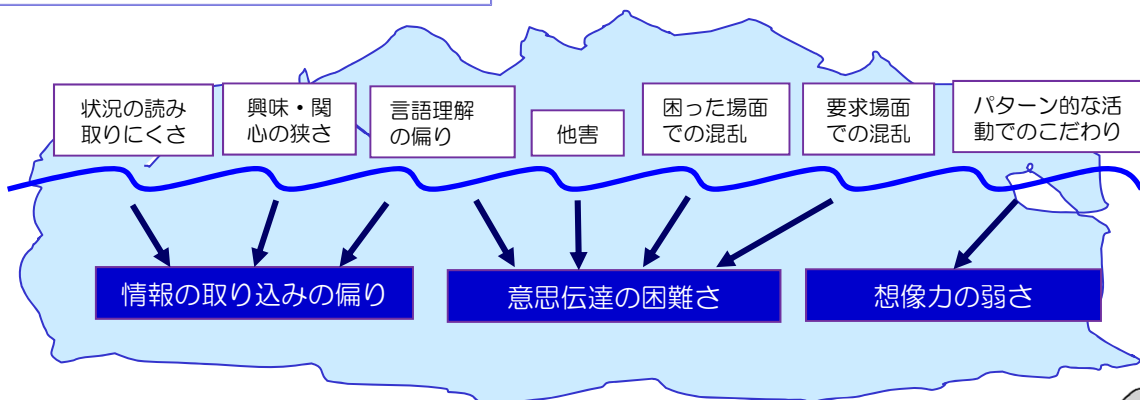
他害

困った場面での混乱

要求場面での混乱

パターンのな活動でのこだわり

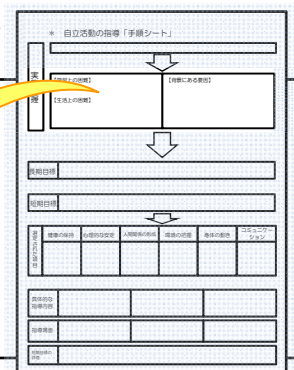
- ② 困難の背景にある要因を考えました。



このようにみるとD児の学习上又は生活上の困難の背景には、情報の取り込みの偏りや意思伝達の困難さ、想像力の弱さがあると考えられますね。



このようにして考えたことを「手順シート」に書き込んでいきました。

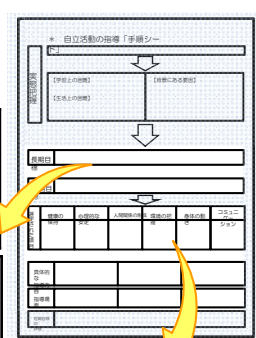


実態把握	【学習上の困難】 ・個別でも集団でも学習活動に参加しにくい。 【生活上の困難】 ・友達からの働き掛けを受けて遊びにくい。 ・気持ちが不安定になったときに人や物に当たってしまう。 ・自分の思いや考えに固執して、広がりが無い。 ・聴覚過敏がある。
	【背景にある要因】 ・情報の取り込みの偏り ・意思の伝達の困難さ ・想像力の弱さ

【学習上の困難】 ・個別でも集団でも学習活動に参加しにくい。 【生活上の困難】 ・友達からの働き掛けを受けて遊びにくい。 ・気持ちが不安定になったときに人や物に当たってしまう。 ・自分の思いや考えに固執して、広がりが無い。 ・聴覚過敏がある。
【背景にある要因】 ・情報の取り込みの偏り ・意思の伝達の困難さ ・想像力の弱さ

自立活動の目標設定の際のキーワードは「これができたら、これが改善されたら、学習や生活がもっと楽になるだろうな…」でした。そこで、D児の「これ」は何になるかを考えました。

D児の困難が、周囲の状況や他者の意図を理解する場面で多くあるように思われました。よくよく観察してみると、D児には言葉はあるものの、それが意思伝達の有効な手段にはなっていないようです。そのストレスから人や物に当たってしまっているように感じられました。情報を上手く取り込んで活動できたり、自分のしんどさを伝えられたりすると、D児の学習や生活が、楽になりそうです。そこで、一年後の期待される姿を想定し、長期目標を次のように設定しました。



実践編(学校)

長期目標	①教師による活動内容の説明を受け、見通しをもって自分から活動の多くの部分に取り組むことができる。 ②気持ちが不安定になったときに、自分から教師に告げて休憩を取り、気持ちを安定させることができる。
------	--

短期目標	①特定の教師による活動内容の説明を受け、教師の援助を受けながら活動の一部に参加することができる。 ②気持ちが不安定になったとき、教師の呼びかけに応じて、休憩を取ることができる。
------	---

選択された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
			(1)状況の理解と変化に対応すること (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること (2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること	(2)感覚や認知の特性への対応に関すること (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	

具体的内容	・教師の支援を受けて、不安な気持ちや体の疲れの予兆に気付く。(目標②) ・休憩させてほしいことを教師に告げ、教師と一緒に混乱を回避する。(目標②)	・特定の教師と一緒に短い活動をやり遂げる。(目標①) ・教師や友達の様子を見てそれをまねる。(目標①) ・自分の好きな活動に教師と一緒に参加する。(目標①)	・身近な場面で使われる言葉や表現を聞いたり、文字を読んだりして理解する。(目標①) ・絵や道具を見ながら、教師の言葉の内容を理解して活動する。(目標①) ・自分のよく知っている活動に一人で参加する。(目標①)	・活動の方法や目的が分からないとき教師に質問する。(目標①) ・活動の方法や目的が分からないとき「どうするの」「手伝って」などと質問したり、援助を求めたりする。(目標①)
場面指導	・集団での学習活動	・抽出の自立活動の時間 ・掃除の時間 ・音楽、国語、算数の時間	・抽出の自立活動の時間 ・集団での学習活動	・抽出の自立活動の時間 ・生活の時間の直前

イ 自立活動の時間における指導

自立活動の時間における指導は、児童生徒の障害による学習上又は生活上の困難に直接アプローチできる時間です。場の設定や教材・教具の工夫をすることでいろいろな可能性がありそうですよ。

教師は、D児の実態把握から、得意なことや好きな遊びを自立活動の時間における指導に取り入れたようですね。D児が持っている力を発揮できるような活動を1時間の中に構成し、授業を計画したことにより、集中して学習に取り組むことができそうです。D児が活動するための情報を上手に取り込むことができるように、細かな支援が考えられています。できないことや自信がないことは「やだね」と言って受け入れられないD児を、主体的な取り組みに導くための細やかな支援にもなっています。そのため、自分の意思が伝わったという心地よさや達成感、満足感を多く感じることできたようですよ。



実践編(学校)



個別での指導の時間は、D児との共感的な人間関係を築きやすく、とってもいい機会です。状況や情報を整理しやすく、D児も落ち着いて活動に取り組むことができます。「先生どうするの?」と教師に聞けば教えてもらえるといった、社会的に受け入れられる対処方法を意図的に用いることができました。次は、この時間で身に付けた力を、他の授業や生活の中で使えるように考えてみます!!

コラム ～自立活動学習指導案について～

自立活動学習指導案

- 1 対象児童生徒 第 学年〇〇〇〇
- 2 対象児童生徒の実態
 - ・学習上又は生活上の困難さ
 - ・背景要因等
- 3 自立活動の指導目標
 - ・長期目標
 - ・短期目標
 - ・具体的な指導内容
- 4 題材について
 - (1) 題材名
 - (2) 題材設定の理由
- 5 題材の目標
- 6 指導計画

7 本時案

本時の目標	・活動が分からないときに、教師に分からないところを……。
学習活動	教師の支援
1〇〇をする	教師から提案される遊び方や使う道具について質問したり、してもらいたい遊び方を教師に言葉で依頼したりしながら落ち着いて取り組むことができる。 ・教師が、……促すようにする。 ・本児が、……が分かって使えるようにする。 ・質問や援助の依頼以外の場面では、……ことができるようにする。
2〇〇をする	教師の説明を聞いたり、示範の動作を見たりして、正確に腕や足を動かしたり止めたりすることができる。 ・音楽に合わせて、……ことができるようにする。 ・児童に体の動きの説明をするときには、……できるようにする。 ・活動ができたあとには、……分かるようにフィードバックする。
3△△をする	教師の説明を聞いて、ヘアのカードを探し当てたり、順番を交代したりすることができる。 ・活動を始める前に、……で説明しておく。 ・本人の現在の力で……取り組むことができるようにする。 ・説明を描いたシートを……確認できるようにしておく。

*自立活動における個別の指導計画を添付するとさらによく分かります。



自立活動の時間における指導の学習指導案では、個別の指導計画を作成するときに把握した対象児童生徒の実態について、学習上又は生活上の困難さやその背景にある要因などを記述することから着手すると、なぜこの題材を設定したのかが明確になります。

自立活動の時間における指導の場合



一度記憶されたものを修正することが苦手なD児なので、確実に成功体験に導きたいと思っています。

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> 活動が分からないときに、教師に分からないところを尋ねたり、必要に応じて援助を求めたりすることができる。 具体的な活動場面で、教師の説明を聞いて状況を理解し、説明内容に沿って活動することができる。
学習活動	教師の支援
1 ヒーローごっこをする	<p>教師から提案される遊び方や使う道具について質問したり、してもらいたい遊び方を教師に言葉で依頼したりしながら落ち着いて取り組むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師が「今度はこれだ。あれをしよう」などと推量が必要な表現で提案することで、D児からの質問を促すようにする。 教師に依頼することなく、D児が教師に役割をもたせ、自分のイメージの世界で遊びを進めようとした場合は、活動を止めて、「～してほしいの？」などD児の気持ちを確認し、「そういうときには、『〇〇してください』って言うんだよ」と、状況に合わせた適切な表現の仕方を伝え、それを使えるようにする。 質問や援助の依頼以外の場面では、教師はできるだけD児のイメージに沿ったりアクションをするようにし、活動への満足感を十分に味わうことができるようにする。
2 まねっこ体操をする	<p>教師の説明を聞いたり、示範の動作を見たりして、正確に腕や足を動かしたり止めたりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて、D児のできる三つの動きを繰り返して行うことで、D児なりに見通しをもって活動をやり遂げる達成感を味わうことができるようにする。 体の動きの説明をするときには、一つ一つをゆっくりと示範し、教師の動きを見ることと自分の体の動きを確認することで、確実に模倣することができるようにする。 活動ができたときには、うまくできたことだけでなく、教師の説明を聴こうとした態度や教師の示範をじっくりと見ることができたことなど、うまくできた理由が分かるようにフィードバックする。
3 神経衰弱をする	<p>教師の説明を聞いて、ペアのカードを探し当てたり、順番を交代したりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動を始める前に、2枚のカードが一致しなければ順番を交代することや、勝ち負け、さらには、負けたときの気持ちをどう処理するのかについて、ルールシートで説明しておく。 D児の現在のかで操作できる範囲の6枚（三組）のカードでゲームをし、記憶に負荷がかからずに最後まで活動に取り組むことができるようにする。 説明を書いたシートをそばに置いておき、途中でD児が確認できるようにしておく。
4 状況カードを見る	<p>困ったときに、周囲の人に尋ねたり、援助を求めたりしている状況の絵を見て、物がなくなったときの対処の仕方について自分の言葉で教師に伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「何を」「何枚」「どうやって」という活動の見通しを具体的に伝えてから、活動を始めるようにする。 紙芝居を見るように、絵を眺めながら、教師の話聴くだけでよいことを伝え、安心して活動に臨むことができるようにする。 登場人物の誰に注目するかについて伝え、その人物の態度に注目しながら見聞きすることができるようにする。
5 テレビ番組撮影会をする	<ul style="list-style-type: none"> 「今日は何を紹介する?」「先生は誰になるのか?」など、D児が分かる言葉で質問しながら、イメージを十分に引き出し、楽しく満足できる活動になるようにする。 教師の方からも役割の演じ方や状況などについて積極的に提案し、教師の出した案に対する「修正」や「追加」の要求が、D児から出やすいようにする。 番組づくりの一部始終をカメラで撮影するようにし、活動の区切りで楽しかった部分を共感的に見るとともに、「どのように教師に要求や依頼ができたか」について、言葉にして共有し、メモに残して授業後に振り返ることができるようにする。

例えば、学習活動の1「ヒーローごっこをする」では、37ページのD児の個別の指導計画に示されている具体的な指導内容の（目標①）に関わる内容が組み合わされていますね。

D児の自立活動の時間における指導では具体的な指導内容をいくつか組み合わせて学習課題を設定しているようですね。

最後は、ビデオやカメラに自分が映ることが大好きなD児のお楽しみの活動です。これがあるので、授業を最後まで頑張れます。



ウ 各教科等における指導

体育の場合

※ 学習指導案の文中の下線は、自立活動の目標や具体的な指導内容に関連するところを表しています。



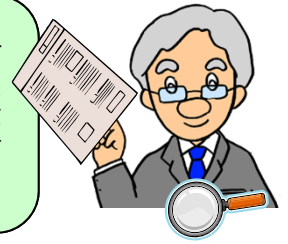
D児の困難さである「活動や状況の把握が苦手で見通しのもちにくさ」に対していろいろな配慮を行い、体育に取り組むことができるようにしています。



実践編(学校)

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> 空中を飛んできたり、床を転がったり、床をバウンドしたりするボールの動きをよく見て両手で受け止めることができる。 相手や目標物のある方向にボールを投げることができる。 	
個別の目標	<p>D児</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きなバウンドで来るボールを両手で受け止めることができる。 3m離れた所から、相手に向かって両手を使って上投げて、ボールを投げることができる。 	<p>X児</p> <p>普段、体育は5名の児童で授業しています。この学習指導案では、D児に関することを中心に示しています。</p>
学習活動	教師の支援	
1 あいさつをする		
2 活動内容を知る	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールボードの絵と文字のカードを指差ししながら、それぞれの活動をボールを使って使う道具を使って示範したり、実際に体を動かして見せたりすることで、活動への見通しと期待を高めるようにする。 全体の説明とタイミングを合わせ個別にスケジュールを手元で示すことで、「誰と」「何回する」など、さらに具体的な活動の見通しがもてるようにする。 	<p>37ページに示した自立活動の短期目標①とその具体的な指導内容に関わるものを実線、短期目標②とその具体的な指導内容に関わるものを点線で示しています。</p>
3 体操をする	<ul style="list-style-type: none"> 各児童の顔写真を貼付けたケンステップを配置し、自分から体操する位置を指し示す。 模倣することに不安な様子が見られるときには、教師がD児の背後に寄り添って立ち(D児から寄って来た場合は受け入れて)教師の腕や足をD児の前に出すようにしながら目前で示範し、体の動かし方が分かるようにする。 	
4 ボールを持って走る	<ul style="list-style-type: none"> 児童が座っている仲よしベンチから10m離れた場所に三角コーンを用意し、ボールを持って走る様子を実際に示範して見せることで、活動内容を分かりやすくする。 内容が理解できた段階で、「やってみたい人」などと挙手を促すようにする。 <p>示範を見て活動内容を理解し、教師と一緒に、三角コーンまでボールを持って走ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 側にいる教師が「〇〇くと〇〇くの後に先生とこうやって一緒にしよう」などと、「誰とする」「どうする」「いつする」など具体的な活動の見通しをもたせ、安心して順番を待つことができるようにする。 質問があった場合や、不安そうな表情をしている場合は、ボールを実際に手元に持って、やり方を示すことによって理解を促すとともに、「先生と一緒にするからね」など安心できるような言葉掛けをすることにより、意欲的にボールを持って走ることができるようにする。 	<p>学習活動に対応した、学習課題が書かれていて順番を決めるよめます。</p> <p>両手でボールを持ち続け三角コーンまで走ることができる。</p> <p>・X児とY児はそばにいる「X</p> <p>もし、これらの教師の支援がなかったら、D児は活動の見通しがもてず、不安になり体育の授業に参加することができなくなります。これは、自立活動の目標①の情報を上手く取り込むための支援です。</p>

教科等の指導における自立活動の指導では、まず純粋に教科の授業における指導を考えることが大切です。それぞれの教科の目標の達成に向け学習指導案を考えましょう。

次に、自立活動の個別の指導計画を隣に置いて、自立活動の目標や具体的な指導内容と関連している部分はどこかと確認してみます。本ハンドブックでは、関連している部分に下線を引きました。すると、授業の中で、自立活動について考えている部分が明確になりました。



	D児	X児
学習活動	教師の支援	
5二人でボールを投げたり受け取ったりする	<ul style="list-style-type: none"> 二人の教師がボール投げのやり方を示範することで、<u>活動内容を分かりやすくする。</u> 「誰と誰が」「どこのスペースですか」などについて、<u>分かりやすくするため、教師が一つのペアごとに、それぞれの場所に行って名前を呼んで、活動場所へ誘導するようにする。</u> <p>示範を見て活動内容を理解し、教師と一緒に、三角コーンまでボールを持って走ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の目の前で両腕を広げ、真似するように促し、<u>確実にとることができる腕の使い方が分かるようにする。</u> 1m程の近距離からボールを受けることから始め、少しずつ離れていくことで、ボールをとることへの自信がもてるようにする。 バウンドするボールを受ける際には、できるだけワンバウンドでちょうど手元にボールが届くようにして、成功経験を味わわせるとともに活動を最後までやり遂げることができるようにする。 	<p>両手でボールを... コーンまで...</p> <p>• X児とY児... 手をしっか...</p> <p>これらの支援は、D児が活動のイメージをもつために、どれも大切です。これらの支援をすることで、教科等の学習に取り組みやすくなります。</p> 
6大玉転がしをする	<ul style="list-style-type: none"> 児童が座っている仲良しベンチから10mの位置にコーンを用意し、<u>ボールを持って走る様子を実際に示範して見せることで、活動内容を分かりやすくする。</u> <p>示範を見て活動内容を理解し、教師と一緒に、三角コーンまでボールを持って走ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 側にいる教師が「<u>〇〇くんと〇〇くんの後に先生とこうやって一緒にしよう</u>」などと、「<u>誰とする」「どうする」「いつする</u>」など具体的に活動のできる見通しをもたせ、<u>安心して順番を待つことができるようにする。</u> 質問があった場合や、<u>不安そうな表情をしている場合は、ボールを実際に持ってやり方を示すことにより理解を促すとともに、「先生と一緒にするよ」等安心できるような言葉掛けをして活動ができるようにする。</u> 気持ちが不安定になり、<u>別室での休憩の要求があった場合は、それを受け入れ、教師と一緒に落ち着くまで別室でしばらく過ごすようにする。</u> 	<p>まず、体育の授業としての一人一人の目標達成を評価するんですね。</p> <p>• X児とY児には、それは... くんもボールやってみたい... 全体への説明...声かけを、再...</p> <p>いつも学習指導案に下線を引いているわけではないです。しかし、このように確認してみると授業の中で、自立活動を意識できるし、自立活動としての評価もしやすくなりました。</p> 
7あいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> 個々の児童が受け取ることができるようなボールを近くから投げ、「上手にできたね」などと称賛しながら、授業でできた満足感を味わうことができるようにするとともに、教師に注目させて、あいさつへとつなげるようにする。 	

実践編(学校)

その通りです。まずは、体育の授業としてどうだったかを評価しましょう。しかし、自立活動の側面から見たときの評価もエピソード記録として残しておくといでしょう。



Ⅱ 各教科等を合わせた指導

生活単元学習の場合



今度は、生活単元学習の単元「劇遊びをしよう」の学習指導案を書いて考えてみました。D児の自立活動における目標や具体的な指導内容を合わせて指導しているのはこの部分です。

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居を見聞きたり教師から活動の説明を聞いたりすることにより、活動内容を理解し、自分の興味のある材料や道具を使って、劇遊びに使う道具を意欲的に作ることができる。 道具を作る際、必要な材料や道具がないときや、貸し借りが必要なときに、教師や友達とやりとりをしたり、援助を求めたりしながら活動に取り組むことができる。 		
個別の目標	D児	X児	
	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居を見聞きて、作りたい家を自分で考えながら教師と一緒に家を作ることができる。 教師に必要な道具を要求したり、自分の作り方を教師に積極的に伝えたりしながら家を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の言葉掛けや身体補助を受けて活動を理解し、教師と一緒に家を作ることができる。 教師の質問を受け…………。 	
学習活動	教師の支援		
実践編(学校)	1 あいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> <u>これから始まる授業が劇遊びに関連した活動であることが分かり期待感をもつことができるように、児童と一緒に歌って劇遊びが始まることを知らせ、楽しい雰囲気になるようにする。</u> 児童が授業に注意を向けやすいように、劇遊びのテーマソングを流したり、教師が歌ったりするなど楽しい雰囲気を作るようにする。 	
	2 物語の内容を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <u>これまでに見た紙芝居を再度提示することで、物語全体の内容を思い出したり、自分たちで作ったわらや木、レンガの家がどのように物語で登場するのかを結び付けたりすることができるようにする。</u> 台詞にリズムや音程、抑揚を付けて読むことで、劇遊びの楽しい雰囲気が出るようにし、「やってみたい」「劇遊びは楽しい」という意識をもつことができるようにする。 	
	3 道具を作る (1) 自分の活動を知る (2) 家を作る	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居を読み終えたら、「家は今日あるのかなあ？」などと質問したり、家の劇遊びのときに、実際には家がなく、物足りなかったことを感じる。 家がないことが数名の児童に理解できたところで、「どうしたらいい？」なるという考えが出やすくする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">紙芝居を見て、作りたい家を自分で考えながら教師と一緒に家を作ることができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> <u>「丈夫な」という部分を、家に用いる材料を提示しながら具体的に示し、遊びのことを考えながら家を作ることができるようにする。</u> D児が苦手だと感じている「テープを付ける」「材を支える」などの役割をもたせるようにするとともに、<u>教師が補助して作ることができるようにし、達成する機会を多く設ける。</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">必要な道具や材料を教師に要求したり、より丈夫な家になるための提案を積極的に伝えたりしながら家を作ることができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> <u>「丈夫な」という概念を「揺れないね」「吹き飛ばないぞ」などと、教師がD児に分かる言葉に言い換えながらやりとりすることで、D児なりの「丈夫さ」の多様なアイデアを引き出すようにする。</u> <u>「こうすれば丈夫になる」といったD児のアイデアを積極的に称賛して取り入れ、活動の満足感や達成感を味わうことができるようにする。</u> <u>気持ちが不安定になり、別室での休憩の要求があった場合は、それを受け入れ、教師と一緒に落ち着くまで別室でしばらく過ごすようにする。</u> 	

これらはすべて、学習課題を達成させるための手だてであると同時に、37ページの自立活動の目標①に関わる支援になっています。

苦手なことだけど「先生と一緒にだと上手くできた！」という経験は大切にしたいと思います。



気持ちが不安定になったときには、D児の体にそっと触れて気持ちが落ち着くのを待ちます。落ち着いてから、「あれが嫌だったんだよね。分かったよ。」と言葉を掛けるようにしています。

	D児	X児
学習活動	教師の支援	
4できた道具を使って遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 家を壊しそうになるオオカミの動きに注目を促し、作った児童と家の出来具合についてやり取りをすることで、自らが作っている家がオオカミと、どう関わるのか分かるようにする。 日常的にD児が使っている<u>具体的で簡単な言葉や表現を使いながら、教師主導で質問をすることで、適切なやりとりを楽しむ中で活動をやり遂げることができるようにする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みにくいときには、教師が身体的に補助を友達とのタイミングを合わせて演じることで、集団との一体感を味わうことができるようにする。
5あいさつをする	<ul style="list-style-type: none"> オオカミの声であいさつをするなど、最後まで劇遊びの楽しさを味わい、次回への期待をもたせるとともに、授業の終わりを意識できるようにする。 	

指導を終えて



D児がどんなふうに情報を上手く取り込んで活動できたか、自分のしんどさを伝えられたか、その結果、活動が上手かったという体験を積み重ねられているか、記録を振り返りながら評価をしてみました。

※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

実践編(学校)

	成果と課題	改善点
短期目標の評価	<p>親しみのある教師から活動内容の説明を受けたことで、援助を受けながら活動の一部に参加することが増えてきている。早めに正しい情報を伝えられないと自分の考えでやり方などを決めてしまうことがある。</p> <p>気持ちが不安定になったとき、教師の呼びかけに応じて、休憩を取り、気持ちを安定させることができるようになってきた。</p>	<p>引き続き、安心できる教師との関係を基に、説明や示範のタイミングを計りながら、早めに説明や示範を行い、活動での成功体験を積み重ねるようにしていく。また、教師の支援で自分の気持ちに気づき、不安を伝えられるようにしていく。</p>

各教科等を合わせた指導における自立活動の指導を考えるときにも、まず第一に、純粋に各教科等を合わせた指導の授業を考えましょう。

次に、自立活動の個別の指導計画を隣に置いて、「自立活動の目標と関連している部分はどこかな」と確認してみましょう。本ハンドブックでは、分かりやすくするために関連している部分に下線を引きました。

各教科等を合わせた指導の場合も、合わせて指導している自立活動の具体的な指導内容や合わせている学習場面は一人一人違います。自立活動の個別の指導計画で設定した、目標や具体的な指導内容をよく見てどこで指導できるか考えてみましょう。

D児の場合は、教師の支援の部分に大きく関わっていたようです。

児童個々に設定した自立活動の目標によっては、単元(題材)の目標や本時の目標、学習活動に対応した学習課題と関連している場合があります。

さらに、「この学習場面なら、この具体的な指導内容を合わせて指導できそうだ」と後から追加する場合がありますよ。



(2) 高等部第生徒Eのケース

ア 生徒の実態把握と個別の指導計画

高等部第2学年の生徒Eは自閉症と知的障害のどちらの診断もされています。決まった活動や納得できたことに対しては、まじめに確実に取り組むことができる生徒です。そのため、慣れてくると自分なりの方法で活動してしまうため、習得したやり方とは別の方法を提案されたり、アドバイスを受けたりすると不安になってしまいます。また、生徒Eは、指示されていることは理解できていても、納得できないと言葉を荒らしてしまうことがあり、学校生活の様々な場面でイライラして困っているようです。生徒Eの自立活動の指導について考えてみると・・・。

- ① まず、生徒Eに関わる教員が集まって、生徒Eが困っていることや支援の手がかりになることを付箋に書き出しながら話し、付箋を整理して実態把握をしました。

実践編(学校)

手順が決まっている活動は丁寧に行うけれど時間がかかるなあ。

友達と一緒にする活動は苦手だね。

まじめでちゃんとやっているけど、自分なりのやり方とは違うと不安になるよね。

質問に答えられず不機嫌になることがあるよ。

友達のできていないことに気が付くと、厳しい口調で指摘してしまうこともあるわね。

助言や提案を受け入れにくいことがあるわ。なぜかしら。

言葉の意味理解の難しさ

他者の意図の理解のしにくさ

言葉の荒さ

表出の未熟さ

自分の思いや考えの強さ

状況の読み取りにくさ

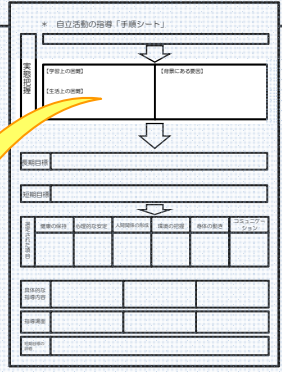
- ② 困難の背景にある要因を考えました。



このように考えると、生徒Eの学習上又は生活上の困難の背景には、他者の言動に対して、その言外にある意図や意味を想像する力の弱さがあると考えられますね。

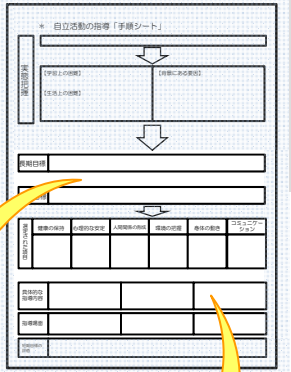


このようにして考えたことを「手順シート」に書き込んでいきました。

実態把握	<p>【学習上の困難】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 手順が決まっている活動は丁寧にを行うが、時間がかかる。 • 友達と一緒にする活動は苦手である。 • 必要なことを伝えることが難しい。 <p>【生活上の困難】</p> <ul style="list-style-type: none"> • まじめできちんとしているが、自分なりのやり方と違うと不安になる。 • 質問に答えることができないと不機嫌になる。 • 助言や提案を受け入れにくい。 • 友達のできていないことに気が付くと、厳しい口調で指摘することがある。 	<p>【背景にある要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 他者の言動に対する理解の弱さ • 意思伝達の未熟さ 	 <p>※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)</p>

自立活動の目標設定の際のキーワードは「これができたら、これが改善されたら、学習や生活がもっと楽になるだろうな…」でした。そこで、生徒Eの「これ」は何になるかを考えました。

実態を整理する中で、生徒Eが学習や生活をする上での困難は、他者の言葉や行動の意味、周囲の状況を理解することです。そのため、自分なりの理解や考えで主張したり行動したりしてしまい、周囲とのコミュニケーションにずれが生じることがありそうでした。生徒Eが納得できるように根拠や理由を付けて状況を説明していくことで、他者の言動に対する理解の弱さを補い、人や活動を受け入れることができると生徒Eの学習場面や生活場面の様子を大きく変えそうです。そこで、一年後の期待される姿を想定し、長期目標を次のように設定しました。



実践編(学校)

長期目標	他者の助言や提案を受け入れることの良さや必要性を理解し、受け入れて活動に取り組むことができる。
短期目標	<ul style="list-style-type: none"> ①教師の説明を聞いて自分の言動を振り返ることができる。 ②他者の助言や提案を部分的に受け入れて活動に取り組むことができる。

選択された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	<ul style="list-style-type: none"> (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事 	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事		<ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2) 言語の受容と表出に関する事

指導的内容	<ul style="list-style-type: none"> • 教師の説明を聞き内容を理解し、説明内容に沿って活動する。 • 教師の示範や友達の活動を見て、その状況や内容を理解して活動する。 • 丁寧な説明を聞き、他者の意図と自分の理解していたことが違っていったことに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> • 分からないときに相手に質問することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教師と一緒に自分の行動を振り返る。 • 説明に沿って活動し、課題をやり遂げる。
場面指導	<ul style="list-style-type: none"> • 国語、数学、美術等の教科学習 • 生活学習、作業学習 • 日常生活の指導 	<ul style="list-style-type: none"> • 国語、数学、美術等の教科学習 • 生活学習、作業学習 • 日常生活の指導 	<ul style="list-style-type: none"> • 日常生活の指導 • 作業学習 • 生活学習

イ 各教科等における指導

国語の指導の場合



題材名「相手に伝わるように内容を整理して話そう」の授業です。
 高等部第2学年7名で編成したグループの授業です。対象生徒が分かりやすいように学習指導案の一部を示しています。

実践編(学校)

本時の目標	・自分が話すときに「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」(4W1Hの要素)を入れて詳しく話したり、質問に沿った答えを返したり、友達の話の内容に合った質問したりすることができる。	
個別の目標	生徒E ・自分が話すときに、友達や周囲の人の様子を4W1Hの要素を入れて肯定的に話したり、友達や教師からの質問に適切に答えたりすることができる。	生徒X ・友達の話を聞いて、聞き取りのメモを確認しながら4W1Hを聞かれて、正確に答えることができる。
学習活動	教師の支援	
1本時の学習を知る	休みの日にしたことや学校であったことを4W1Hの要素を入れて話し、その内容を正確に聞き取る学習をすることを知ることができる。 ・ <u>前時までの生徒の話の中から4W1Hの要素が入っている話をいくつか取り上げることで、本時も友達の前で順番に話をし、質問をしたり答えたりすることを意識できるようにする。</u> ・ <u>話すときの姿勢や声の大きさ、話形など、気を付けることを生徒に尋ねることにより、話し方の学習でもあることを意識できるようにする。</u> ・ <u>「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」という言葉を板書しておき、話や質問のときに手掛かりになるようにする。</u>	
2経験したことを発表したり、それを聞いたりする	友達の様子を4W1Hの要素を入れて肯定的に話すことができる。 ・学校での出来事の中から、 <u>友達の良かった言動を話題として選び、友達の様子を思い出して話すように取り組む前に伝えておく。</u> ・話した内容に4W1Hの要素が足りないときには、 <u>板書の言葉を示し、すべて入っていたかを確認するように促す。</u> ・話し方や態度について手本になる友達を先に指名し、 <u>発表の様子を見せることで、発表の良い姿をモデルにすることができるようにする。</u>	友達の話を4W1Hの要素を意識しながら聞くことができる。 ・手元に「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」「どうした」と分けて書くことができるシートを準備しておき、聞いてすぐ書き込むように促す。 ・聞きながら書き込むことに戸惑い

生徒Eが、状況把握や他者理解ができるようになると学習や生活が楽になると思うので、授業の際には、次のことを大切にしました。

- ① 友達の話し方や話す態度を見て、どのようにすればよいのか分かる。
- ② 友達からの質問や教師の助言を、正確に受け止めることができるように、答えやすい質問や理由が明確な助言を行う。
- ③ 正確に受け止めることが難しい様子が見られたときには、「嫌だな」と思っている気持ちを受け止め、何が嫌なのか尋ねる。
- ④ 「なぜかという～だから・・・」といった話し方で納得できるような根拠や理由が明確な説明をする。



	生徒E	生徒X
学習活動	教師の支援	
3話された事柄について、聞き取った内容を答えたり質問したりする (2と3の活動を繰り返す)	<p>友達や教師からの質問に適切に答えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達や教師の中で、挙手した人を本人が指名することで、聞こうとする姿勢になるようにする。 質問されることに不満な表情になったり不適切な言葉を言ったりするときには何が不満なのかを尋ね、真意を探るとともに質問の内容を繰り返し、場に合った発言であることを知らせるようにする。 	<p>聞き取りのメモを確認しながら、4W1Hのひとつひとつを聞かれて正確に答えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4W1Hの要素を順番に尋ねたときに口ごもる様子が見られたときには、スムーズに答えられるように聞き取りのメモを見るよう促す。 答えられたときには、OKの合図を出し、正解を認めていることが本人に分かるようにする。
4本時の学習のまとめをする	<p>話をするときのポイントを自分の言葉でまとめ、話すときには、4W1Hの要素が入っていると、相手に内容が伝わりやすいことを理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習において分かったことや感想を記述する「振り返りシート」を準備しておき、自分なりにまとめて書くことで、本時の学習を振り返ることができるようにする。 生徒が書いている間に、「話すときには、4W1Hの要素が入っていると、相手に内容が分かりやすい」という内容の記述がある生徒を見つけ、全員で紹介することで、そのことが大切であることに気付くようにする。 	

各生徒の自立活動の目標は・・・

生徒E
教師の説明を受けて自分の言動を振り返り、他者の助言や提案を受け入れて活動に取り組むことができる。

生徒X
新しいことや苦手なことにも、参加方法を相談しながら取り組み、自信をもって活動することができる。

一人一人国語の授業に自立活動を関連付けてみると・・・



「国語の目標がどんな指導方法だと達成できるのだろうか」「学習活動や学習課題を分かって取り組むことができるのだろうか」と一人一人の支援を考えましたね。
さらに、自立活動の視点で、教師の支援を見てみると下線を引いた支援が一人一人の困難に配慮している部分になり、3人とも違うんだということが分かると思います。

ウ 各教科等を合わせた指導

作業学習の場合



今度は、作業学習の「さをり織り」班での学習指導案を書いてみたんだけど・・・生徒Eの自立活動における具体的な指導内容を合わせて指導しているのはこの部分です。

実践編(学校)

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭や外部からの注文販売に向け、自分の目標を意識し、さをり織りに意欲的に取り組むことができる。 自分の指示書をよく見て、丁寧さや正確性に気を付けながら、分担した製品の布を織ることができる。 指示書に沿ってできているかの確認や援助を求めたり、自分から必要な報告をしたりすることができる。 	
個別の目標	<p style="text-align: center;">生徒E</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>外部からの注文であることを意識して、目標としている長さまで織ることができる。</u> <u>指示書どおりの色や織り幅で、布の端を真っ直ぐにすることに気を付けて織ることができる。</u> 	<p style="text-align: center;">生徒X</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部からの注文であることを理解して、織り続けることができる。 指示書どおりの色の糸を使って織ることができる。 3色織るごとに報告し確認することができる。
学習活動	教師の支援	
1 本時の目標を立てる	<p style="text-align: center;">前時を振り返り、自分が分担する製品を確認し、本時の目標を教師と相談して決めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業室に来た生徒から率先して作業日誌の記入に取りかかるように促す。 前時の課題を書いておくことで本時の目標に反映させることができるようにする。 <u>外部からの注文であることを確認することで、指示書に沿うことの大切さを理解できるようにする。</u> 	
2 本時の活動を確認する	<p>他班の友達もふれあいまつりに向けての製品作りに向けての目標をもって取り組んでいることを知り、本時の活動に対する意欲を高めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>他班の生徒の目標を聞くことにより、本時もそれぞれの目標をもって活動を行うことを知り、自分も頑張ろうとする意欲を高めることができるようにする。</u> 	
3 作業をする	<p>目標の長さまで意欲的に織ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ペースよく織れているときは、見守り、認める言葉を掛ける。 ペースよくできていない時は、<u>長さを測り、目標との差を意識できるようにする。</u> <p style="text-align: center;"><u>指示書どおりの色や織り幅で、布の端を真っ直ぐにすることに気を付けて織ることができる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 指示書どおりにできているときは賞揚する。 できていないときは、<u>指示書のどんな所ができていないか、布と照らし合わせて確認するように促す。</u> <p style="text-align: center;">3色織るごとに、<u>織り具合の確認を教師とすることができる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>指示書と見比べて自分で違いに気付いて直すことができるようにする。</u> 	<p>これらは45ページの自立活動の目標や具体的な指導内容に関わる支援になっています。</p> <p>生徒Eの場合、「他者の意見や提案を受け入れて活動すること」が目標なので、この作業学習においては、個別の目標や四角の中に示した学習課題とも一致しています。</p> <p>外部からの注文品であることを理解して、どのように作業することがよいのか自分で考えて行動できるようにしています。</p>

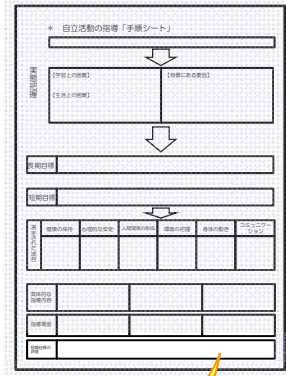


学習活動	教師の支援
4片付けと掃除をする	<p>使った道具や材料を自分で元の場所に片付けたり、任された場所を隅々まで掃除したりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 使った道具や材料の片付けをしてから、掃除に行くことが定着するように、片付けが終わっているかどうか確認する。 使った物を片付ける、椅子を出す、掃除をする、椅子を入れるという大まかな手順は共通に行わせるようにし、必要に応じて、全体に向けて言葉掛けをすることにより、全員で協力して片付けることができるようにする。
5目標の反省をする	<p><u>本時の活動を自分で振り返り、反省をすることができる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>自分で作業日誌のチェック項目に沿ってチェックしたり、反省を書いたりすることにより、本時の活動について振り返ることができるようにする。</u> 教師との確認の際に製品名を聞くことで、製品に対する意識を確かめることができるようにする。 <u>注文どおりになっていることや違ったときにやり直しのできたことを褒め、外部の注文者に届けられる製品になっていることを確認できるようにする。</u> <p>・手元に集中し、織り続けた結果、目標の長さを織ることができたこと伝えることで、達成感を味わうことができるようにするとともに、納入期限を守る大切さを感じることができるようにする。</p>
6本時のまとめをする	<p><u>他生徒の反省を聞き、自分との違いに気付く。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を発表した生徒が、全体の場で発表することにより、他班の友達の頑張りを認め合うことができるようにする。 次時も本時に引き続き、ふれあいまつりに向けての製品作りを行うことを知らせることにより、次時への意欲を高めるようにする。

指導を終えて



生徒Eがどんなふうに他者の意図や状況を受け入れてきたか、その結果、受け入れてよかったと実感でき、活動が上手くいったという体験を積み重ねられているかをみてみましょう。



※自立活動の指導「手順シート」(8ページ)

短期目標の評価	成果と課題	改善点
	<p>教師が「なぜかというと～だから」といった理由を説明することで他者の助言の意図を理解できることが増えてきた。提案を受け入れて作業したり活動したりできることで、称賛される場面が増え、自信につながっている。助言の意図を理解するためには、まだ教師の説明がないと難しい。</p>	<p>自分の判断で他者の助言や意向を受け入れた方がいいかどうか判断しながら活動できるようにしていく。</p>

最後は、自立活動の指導を積み重ねたことで、生徒Eの学習や生活がどんなふうに楽に、豊かになったのか複数の教師で話し合い、確認しましょう。



* 実践を振り返って・・・

D児も生徒Eも学習場面や生活場面の様子がすいぶん変わってきましたね。それは、指導していることが二人にぴったり合っていたからだと思います。



実態を把握するときに、とっても悩んだんですが、付箋紙を使って学年団の教師といろいろな場面での実態を出しながら話し合ったことがよかったです。



私もそうです！高等部なので、私が一緒にしていない授業のときや、生活場面で気が付いていなかった生徒Eの困っている様子を、他の教師から聞くことができ、生徒Eのしんどさがよく分かりました。

二人ともチームで、様々な視点から子どもたちの学习上又は生活上の困難を押さえることができたようですね。そして、その困難の背景にある要因も考えることができていますね。

そのことによって、「これができたら、これが改善されたら、学習や生活がもっと楽になるだろうな…」の「これ」は何になるかを考え、目標を設定することができたのだと思いますよ。



二人の教師の設定した具体的な指導内容は、対象の児童生徒にとって取り組みやすく「やってみよう」と思える、「やったらできた、上手になった」と実感できるものでした。また、指導に当たって実際の活動を取り入れ、得意な面、進んでいる面を活用する、自分なりの工夫や方法が分かるような配慮がされていたこともよかったですね。

特別支援学校D児の実践の場合

D児の学校には、自立活動の時間における指導の時間がありました。この時間は、情報を上手く取り入れることができずに困っているD児の困難さの部分ピンポイントで指導をすることができます。

教師は、D児との関係づくりのため、D児の好きな活動を一緒にすることから始めています。言葉を話せても不安な気持ちを伝えられないD児にとって大事なことだったと思います。

自立活動の時間における指導で身に付けた、教師との基本的な信頼関係や情報を取り入れて活動し成功した体験をよりどころに、集団活動につなげる緻密な計画のもと実践が重ねられているところが素晴らしいですね。



D児が安心して学校生活を送ることができるようになってきて嬉しく思っています。焦らず、D児の気持ちに寄り添いながら指導を継続していきたいと思っています。

特別支援学校生徒Eの実践の場合

生徒Eの学校の教育課程には、D児の学校のように自立活動の時間における指導の時間が設定されていません。

自立活動の指導をきちんと行っていくためには、個別の指導計画で立てた自立活動の目標をどの授業でも意識しておく必要があります。教師は、学校の教育活動全体を見渡し、どこで指導ができるのか一生懸命考えたところが素晴らしいですね。

生徒Eが納得できる形で他者の意図を伝えたことで、「やったらできた」、「やってよかった」という指導につながったと思います。



生徒Eが、褒められることが増え、自信をもって活動できている姿は、私たちにとって嬉しいことです。こうした姿で、卒業後の生活を更に豊かに送ることができるようにしたいと思います。

日々の授業において

自立活動は、授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導等においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行わなければなりません。

そのため、次の順番で授業を考えていくようにしましょう。

- ① 各教科等、また、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習）としての授業づくりをする。
- ② 1単位時間の授業まで考えることができたなら、自立活動の個別の指導計画と照らし合わせながら、自立活動の目標や具体的な指導内容と関連しているところを確認する。

ただし、児童生徒一人一人の自立活動の目標や具体的な指導内容によって、それぞれの授業の中で関連しているところは違います。関連しているところが少ない児童生徒もいれば、多くの部分で関連している児童生徒もいるでしょう。また、授業の本時の目標や学習活動に対応した学習課題、教師の支援等、様々なところに関連する場合があります。さらに「授業のこの部分で工夫すれば関連して指導することができそうだ」と気付く場合もあるので留意して自立活動との関連を確認してください。

自立活動における個別の指導計画を作成して、教員間で自立活動の目標や具体的な指導内容を共通理解できると、いろいろな場面で自立活動の指導ができるようになります。

事例の児童生徒のように、担任している児童生徒の困難が少しでも改善・克服されるといいですね。応援しています！



— おわりに —

知的障害のある児童生徒一人一人の「学習や生活が楽になるといいな、豊かになるといいな」と願う多くの方の自立活動の実践により、児童生徒の成長や変化が見えることはとても嬉しいことです。各校で実践された有効な情報を多くの仲間と共有することで私たち教員の意欲も高まり、自立活動の質の向上につながっていくのではないかと思います。

是非、本ハンドブックを傍らに置いてご活用いただき、校内で自立活動の指導について語り合っていたいただきたいと思います。

最後になりましたが、本ハンドブック作成に当り、懇切丁寧に御指導、御助言いただきました 岡山大学大学院教授 仲矢明孝先生に深く感謝いたします。

本当にありがとうございました。



— 引用・参考文献 —

○引用文献

- 1) 文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説総則編』P31
- 2) 文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説総則編』P31
- 3) ~16) 文部科学省(2009)『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)』P42, 43, 44, 47, 48, 55, 56, 59, 60, 69, 70, 73, 74

○参考文献

- ・独立行政法人国立特殊教育総合研究(2004)プロジェクト研究報告書『盲・聾・養護学校における新学習指導要領のもとでの教育活動に関する実際適研究—自立活動を中心に—』
- ・岡山県教育センター(2007)『小学校・中学校の特殊学級における自立活動の指導に関する調査研究』
- ・文部科学省(2009)『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領』
- ・文部科学省(2009)『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』
- ・文部科学省(2009)『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)』
- ・埼玉県立総合教育センター(2011)『特別支援学校及び特別支援学級における知的障害のある児童生徒の自立活動に関する調査研究』
- ・仙台市教育委員会(2011)『今日からできる自立活動』
- ・福岡県教育センター(2012)『小・中学校特別支援学級 自立活動の指導の手引き—授業づくりのための手順モデルシートの活用—』
- ・山口県教育委員会(2013)『自立活動の指導の手引き』
- ・岡山県教育委員会(2013)『第2次岡山県特別支援教育推進プラン』

平成25・26年度岡山県総合教育センター所員研究
(共同研究；特別支援教育)
「知的障害特別支援学校・知的障害特別支援学級における自立活動に関する研究」
研究委員会

指導助言者

仲矢 明孝 岡山大学大学院教授

協力委員

岡山県内特別支援学校教諭 4名
岡山県内小学校教諭 1名
岡山県内中学校教諭 1名

研究委員

林 栄昭 岡山県総合教育センター特別支援教育部長（平成26年度）
高橋 章二 岡山県総合教育センター特別支援教育部長（平成25年度）
（現 岡山大学教育学部附属特別支援学校副校長）
池畑 公美 岡山県総合教育センター特別支援教育部指導主事
片岡 一公 岡山県総合教育センター特別支援教育部指導主事

平成27年2月発行
自立活動ハンドブックー知的障害のある児童生徒の指導のためにー

編集兼発行所 岡山県総合教育センター
〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL (0866)56-9101 FAX (0866)56-9121
URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>
E-MAIL kyouikuse@pref.okayama.lg.jp

お問い合わせ 特別支援教育部 TEL(0866)56-9106
Copyright © 2015 Okayama Prefectural Education Center

